



静岡県立大学看護学部

学部・研究科報

—2009—

目次

1. 看護学部・看護学研究科の歩み	
1) 学部長挨拶	1
2) 研究科長挨拶	2
2. 看護学部の歴史と組織図	
1) 歴史	3
2) 組織	4
3. 看護学部・看護学研究科の教員構成	
1) 学部の教員構成	5
2) 研究科の教員構成	6
3) 年度途中着任の教員	7
4. 看護学部・看護学研究科の教育課程	
1) カリキュラム	
(1) 学部カリキュラム	8
(2) 研究科カリキュラム	17
2) 学生の研究	
(1) 学部の指導体制と研究テーマ	20
5. 入学生・卒業生・修了生の傾向	
1) 学生定員および在学生数	
(1) 学部	24
(2) 研究科	24
2) 入学志願者数および入学者数とその背景	
(1) 学部	25
(2) 研究科	26
3) 卒業・修了者の進路状況	
(1) 学部	26
(2) 研究科	27

4) 免許・資格などの取得状況	27
6. 看護学部・看護学研究科の教育・研究・地域貢献活動	
1) 教員の教育・研究・地域貢献活動	
(1) 専門基礎領域の活動	
①医学系教員の活動	28
②心理学系教員の活動	31
③保健学系教員の活動	33
(2) 基礎看護領域の活動	34
(3) 成人・老人看護領域の活動	39
(4) 小児看護領域の活動	43
(5) 母性看護・助産学領域の活動	43
(6) 精神看護領域の活動	46
(7) 地域看護領域の活動	48
(8) 看護技術（研究科）領域の活動	50
2) 研究助成金取得状況	
(1) 学内特別研究費	52
(2) 学外研究費	53
3) 学会等の開催状況	55
4) 国内共同研究の状況	56
5) 海外共同研究の状況	56
6) 海外研修の状況	56
7. 学部・研究科としての社会貢献	
1) 公開講座等の開催状況	57
2) 学会・職能団体等の役員・評議会・委員会活動	58
3) 国・地方自治体における活動	60
4) 高大連携事業	61
5) その他の活動	62
8. 教員紹介	67
9. 編集後記	78

看護学部・看護学研究科の歩み

1) 学部長挨拶

静岡県立大学看護学部長 木村正人

今年度も63名の看護師・保健師・助産師の卵たちを世の中に送り出すことができました。これからそれぞれの職場で社会への一步を踏みだそうとしています。これはひとえに私たちを取り巻く多くの方々の温かい支援があったからこそと心からお礼を申し上げます。

私たち教員は、一個一個の卵から雛たちが輝かしい未来へ向かってはばたくことを祈り、そのために必要な潜在能力を高め、広い意味での生きる力を蓄えることを教育の目標にして、学部での指導を行ってきました。平成9年の学部創立以来、考える看護職を育てようという私たちの理念はなお揺るがずに受け継がれています。どんな時代でも、どんな境遇でも、考えることを忘れなければ、その時のベストの看護を選択できると、私たちは考えています。

知識は進歩し、技術は改められていきます。わずか4年間の学生時代に覚えた知識と技術でこれからの長い専門職としてのキャリアを生き抜こうと考えるのは、不遜であると同時に、非現実的です。私たちに命を預ける患者さんたちの期待にこたえるためにはこれから一生続く勉強が欠かせません。自分を磨き、社会から尊敬される看護職になるためには不断の努力が必要とされるでしょう。とても十分とは言えないとしても、私たちは学部の4年間でそのための基礎となる力を与えたと思っています。それに対して確実な手ごたえは感じています。しかし、これからの長い人生をさらに価値あるものとするためには、社会からの向けられる厳しいまなざしに耐える力を必要とします。温かさとともに、厳しさを伴ったそれぞれの職場での御指導をお願いする次第です。

この一、二年で、看護教育の将来への展望は大きく変化してきました。看護師教育の4年制化が明確な目標として設定される一方、保健師教育課程の多様性が正式に認められることになりました。これは、看護職の専門性を維持するために必要な教育の充実を期するとともに、少子高齢化にともなう社会のひずみや医療荒廃に対応するものとして、国民の期待の高さを反映したものと云えるでしょう。さらに、今年に入って「特定看護師」の制度化を目指す動きが注目されてきています。この特定看護師は医師の名称独占の根本である医療行為に大きく近づこうというものです。このような動きに対しては看護職の間でもこれまで賛否の大きく分かれるところでした。しかし、行政の中核から、制度化に向けての動きが発信されたという事実は、この方向に向けてすでに何かが始まったということを感じさせられます。もとより、医療の拡散空中分解に歯止めをかける良策であれば、反対する理由はありません。しかし、医師の定員増と同様、この特定看護師の制度化の動きが、あまりにも結果を急ぎすぎていると感じるのは私だけでしょうか？これまでそれなりの均衡が保たれていた水面に一石を投じることがどのような波紋を引き起こすか、その波及するところの広さを考えると、じっくりとあらゆる可能性を考えて、医療全体を見据えた最良の制度を構築してもらいたいと願うものです。

大学が学問の府として社会から独立しているという虚妄が崩壊してからすでに久しい年月が経ちます。とはいえ、学問にとって、社会の急な動きに翻弄されることのない、ゆるぎない深い根と大きな幹が大切であることは永遠の真実であろうと思うこのごろです。

平成22年3月

2) 研究科長挨拶

看護学研究科長 式守晴子

看護学研究科は平成13年4月に、高度看護専門職、看護管理者および看護学研究者の養成を目標に、学生定員1学年16名で開設しました。開設時は2つの領域（看護基礎学領域・看護実践学領域）で編成されていました。

その後看護職の卒後教育の実情や教育ニーズを鑑み、カリキュラムの一部改正を行い、平成16年度より看護実践学の1領域の編成として、そのなかに6専門分野（保健医療システム学・看護管理学・成人老人看護学・小児看護学・母性看護学・地域看護学）を再編しました。さらに平成18年4月から精神看護学を、さらに平成21年4月より看護技術学分野を開設するなど専門分野の充実を図りました。

また、学外機関との連携として平成16年度から静岡県立静岡がんセンターと連携大学院協定を、平成20年度には浜松医科大学大学院と指導教員に関する協定を結び、学生が他研究機関で学習する機会を設けています。

静岡県立大学は、平成19年4月に法人化しました。法人化により、法人本部はもとより各学部と各研究科で中期計画として平成19年度以降5年間の年度計画を策定し、計画達成にむけて努力しています。

研究科の中期計画の柱の一つは、専門性を高めるカリキュラムの検討です。これは近年の保健医療分野の変化に伴い、専門性の高い知識と技術を持った看護職が一層求められるようになりました。これに応じて、平成20年度にはカリキュラム検討を行い、専門分野内の科目の充実を図りました。そして、平成21年度は、大学院での助産師育成コースの設置を申請し、認可され、平成22年4月より教育を始めます。そのため、既存の母性看護学分野を助産学分野に変更しました。今後は特定看護師制度に関する動向に注目しながら、修士課程の専門分野の充実を図る予定です。もう一つの目標は看護学の博士課程の設置です。これも修士課程の充実と並行して検討を重ねる予定です。

平成21年度本研究科カリキュラムの充実を地域の皆様に周知するために、通常の研究科パンフレットに加えて、助産学分野の認可を受けて、新たなパンフレットを作成し、県内外の保健医療機関に配布致しました。こうした広報活動は単に周知するだけでなく、学生の学習環境を整えるためにも重要です。というのは多くの方々に研究科をご理解いただき、実習や研究へのご協力を得ることができるからです。また学生同士のディスカッションを活発にするため、学生数の確保も必要です。そのため、広報活動としてオープンキャンパスを2回開催し、さらに特別講義を公開するなどを実施してきました。特別講義は県立総合病院、県立こども病院等の静岡県立の医療機関をはじめ看護学部が実習を依頼する病院の方々にもお知らせし、「開かれた大学院」として地域の看護職の方々に役立てていただきたと考えております。

平成22年度はこれまで欠員であった分野の教員を確保し、学生の多様な希望に対応できるよう研究科の充実を図り、研究においても実践においても高い専門性を持った人材を育ててゆく所存です。ご協力をよろしくお願いいたします。

平成22年3月

1. 看護学部の歴史と組織

1) 歴史

主な出来事

昭和62年	4月	静岡県立大学開学、初代学長に内菌耕二が就任する。（県立三大学・静岡薬科大学（昭和28年開学）、静岡女子大学（昭和42年開学）、静岡女子短期大学（昭和26年開学）を改組・統合し、総合大学とする。）
昭和63年	3月	大学院薬学研究科が設置される。
平成3年	3月	大学院生活健康科学研究科（博士前期課程）及び国際関係学研究科（修士課程）が設置される。
平成5年	4月	第2代学長に星猛が就任する。
平成7年	3月	大学院生活健康科学研究科（博士後期課程）が設置される。
平成9年	4月	看護学部看護学科が設置される。 初代学部長に矢野正子が就任する。 環境科学研究所（大学附置）が設置される。
	10月	中森正純元教授が名誉教授になる。
	12月	第2回静岡健康・長寿学術フォーラムが開催される。（セッションⅢ長寿社会に向けての看護学の展望：看護学部が運営）
平成10年	3月	大学院経営情報学研究科（修士課程）が設置される。
平成11年	4月	第3代学長に廣部雅昭が就任する。
	11月	中田健次郎元教授が名誉教授になる。
平成13年	4月	大学院看護学研究科（修士課程）が設置される。 初代研究科長に矢野正子が就任する。 第2代学部長に佐藤登美が就任する。
平成15年	4月	第3代学部長に木村正人が就任する。 第2代研究科長に佐藤登美が就任する。 矢野正子前研究科長が名誉教授になる。
	11月	わかふじ大会（第3回全国障害者スポーツ大会）が静岡で開催される（第58回国民体育大会NEW！！わかふじ国体と同時開催）。 （学部2，4年生全員がボランティア「わかふじアミィ」として、1年間の研修を経て参加）
平成17年	4月	第4代学長に西垣克が就任する。 第4代学部長に小寺栄子が就任する。 健康支援センターが設置される（初代センター長に永井洋子教授）。
平成19年	4月	静岡県公立大学法人が設置・経営する大学となる。 理事長に鈴木雅近、学長に西垣克が就任する。 第5代学部長及び第3代研究科長に木村正人が就任する。
平成19年	10月	第4代研究科長に式守晴子が就任する。 永井洋子元教授が名誉教授になる。
平成21年	2月	学長代行に木苗直秀が就任する。
	3月	第5代学長に木苗直秀が就任する。

2) 組織



2. 看護学部・大学院看護研究科の教員構成

1) 学部の教員構成

表 3-1-1 平成 21 年度学部の教員構成

※(平成 21 年 4 月 1 日現在)

区 分		担当教員			
		教授	准教授	講師	助教
学部基礎科目	医学系	木村正人 (内科学) 金澤寛明 (解剖生理学)		日吉孝子 (感染・免疫学)	濱井妙子 (薬学、国際保健学)
	保健学系	松田正己 (国際保健学)			
	心理学系		西田公昭 (社会心理学)		
専門教育科目	基礎看護学	小寺栄子		寺内英真	佐藤智子 酒井見名子
	成人・老人看護学	古川文子	奥原秀盛 白尾久美子 野村千文		池田和恵 井下裕子 繁田佳映 山田理絵
	精神看護学	式守晴子		石村佳代子	河内俊二
	小児看護学				美濃祐紀子
	母性看護・助産学	松岡恵	太田尚子		ウッド小池奈津子 山田貴代 鈴木恵
	地域看護学	三輪眞知子	長谷川喜代美		上田真仁

2) 研究科の教員構成

表 3-2-1 平成 21 年度研究科の教員構成

※(平成 21 年 4 月 1 日現在)

区 分		担当教員		
		教授	准教授	非常勤講師
共通科目	看護学共通科目	木村正人・金澤寛明 小寺栄子・三輪眞知子 古川文子・式守晴子 紙屋克子・松岡恵 (兼担) 小山秀夫 鈴木直義 (経営情報学研究科)	白尾久美子 西田公昭 太田尚子	青木和恵 岩下清子 岩本義久 岡本恵里 神馬征峰 竹内登美子 永井洋子 西村ユミ 齋藤訓子 松尾ひとみ
		担当教員		
区 分		教授	准教授	非常勤講師
共通科目	他領域連携科目	(兼担) 森本達也・今井康之 (薬学研究科) 熊谷裕通 (生活健康科学研究科) 吉岡寿・桑原厚和 下位香代子 (環境科学研究所) 犬塚協太 (国際関係学研究科) 奥村昭博 (経営情報学研究科)	(兼担) 伊吹裕子 谷幸則 (環境科学研究所)	
		担当教員		
専門科目	保健・医療システム学	☆松田正己		
	看護技術学	☆紙屋克子		
	看護管理学	☆小寺栄子		勝原裕美子
	地域看護学	☆三輪眞知子		
	成人・老人看護学	☆古川文子	奥原秀盛 白尾久美子 野村千文	
	母性看護学	☆松岡恵	太田尚子	
	小児看護学	—	—	
	精神看護学	☆式守晴子		

☆ 主指導教員

3) 年度途中着任の教員

表 3-3-1 平成 21 年度途中着任教員

※(平成 22 年 3 月 31 日現在)

区分	職名	着任月日	氏名
小児看護学	助教	平成 21 年 9 月 1 日	斉本美津子
母性看護・助産学	講師	平成 21 年 10 月 1 日	勝又里織

3. 看護学部・看護学研究科の教育課程

1) カリキュラム

(1) 学部カリキュラム

平成 21 年度入学生（編入生は除く）より、保健師助産師看護師養成所指定規則の改正に伴い新たな教育カリキュラムを導入した。

新カリキュラムでは、旧カリキュラムと同様に、全学共通科目と学部基礎科目、専門教育科目に分類されるが、学部基礎科目を「主体性と判断力の育成」「英語コミュニケーション」「心と身体理解」「社会と健康の理解」の 4 科目群、専門教育科目を「看護の基盤」「看護実践Ⅰ」「看護実践Ⅱ」「看護の役割と発展」の 4 科目群に構成した。

今年度開講された新旧カリキュラムの構成と、担当教員は以下の通りである。

表 4-1-1 平成 21 年度全学共通科目（新旧カリキュラム）

第 1 部門（リテラシーとスタディスキル） ドイツ語入門 フランス語入門 スペイン語入門 中国語入門 日本語作文A 日本語作文B ヒューマン・ケア 情報検索実習 情報処理実習
第 2 部門（概論） 医療経営学概論 社会思想史 犯罪社会学 イギリスと日本 現代の問題と宗教 日常生活と心理学 心の発達と行動 グローバル社会学入門 世界史 自然科学概論 数学入門 物理学入門 化学入門 生物学入門 日本文化入門
第 3 部門（現代教養） くすりと医療の歩み くらしと化学 生態学入門 遺伝子と生命 環境とその保全 国際関係学への招待 多文化共生論 現代社会とNPO 人間行動の科学 コンピュータ数学入門 社会保障論 ベンチャー企業論 プログラミング入門 命と倫理 自然と環境 環境と健康
総合科目 総合科目Ⅰ 総合科目Ⅱ 総合科目Ⅲ 総合科目Ⅳ 総合科目Ⅴ 総合科目Ⅵ 総合科目Ⅶ

注) 全学共通科目は各科目 2 単位。

卒業必要単位数は、旧カリ 12 単位、新カリ 8 単位（学部基礎科目「運動」「研修」各科目 2 単位（選択）の履修単位を含め換算）である。

表 4-1-2 平成 21 年度学部基礎科目 (新カリキュラム：平成 21 年度入学生)

※網掛けの部分は次年度以降開講する科目

授業科目の名称		配当年次	時期	単位数		時間数	担当教員
				必修	選択		
運動	身体運動科学 A I	1	通		2	60	大石哲夫+(薬学部)
	身体運動科学 A II	2	通		2	60	
研修	海外英語研修	1・2・3・4			2	60	
主体性と判断力の育成	基礎セミナー	1	前	1		30	松田正己 西田公昭 太田尚子 奥原秀盛 野村千文 石村佳代子 寺内英真
	看護統合セミナー	2	前	1		30	
英語コミュニケーション	基礎英語 I	1	前	1		30	マドンナ、リス+
	基礎英語 II	1	後	1		30	マドンナ、リス+
	基礎英語 III	1	前	1		30	マドンナ、リス+
	基礎英語 IV	1	後	1		30	マドンナ、リス+
	英語コミュニケーション I	2	前	1		30	
	英語コミュニケーション II	2	後	1		30	
学部基礎科目	人間関係論	1	前	1		30	西田公昭
	生涯発達心理学	1	前	1		30	式守晴子
	臨床心理学	2	後		1	15	
	心理コミュニケーション	1	後		1	15	西田公昭
	機能形態学	1	前	3		90	金澤寛明
	生物化学	1	前	1		30	三輪匡男* (薬学部客員教授)
	病理学	1	後	1		30	金澤寛明
	微生物学	1	後	1		15	三宅正紀+ (薬学部) 日吉孝子
	臨床薬理学	2	前	1		30	
	臨床栄養学	2	前	1		30	
	病態学 I (内科)	2	前	1		30	
	病態学 II (外科)	2	前	1		30	
	病態学 III (小児)	2	後	1		15	
	病態学 IV (精神)	2	後	1		15	
	病態学 V (母性)	2	後	1		15	
	症候論	1	後	1		30	木村正人
	臨床検査・画像診断	2	前	1		30	
	基礎健康科学実習	1	後	2		90	木村正人 金澤寛明 日吉孝子 濱井妙子
	運動と健康の生理学	1	前		1	15	山本章* (静岡大学)
人間工学	2	前		1	15		

社会と健康の理解	現代社会論	1	前	1		15	渡邊聡+ 犬塚協太+ (国際関係学部)
	健康と社会	1	前	2		30	
	健康環境論	1	前		1	15	日吉孝子
	社会福祉論	1	後	1		15	江原勝幸+ (短期大学部)
	保健学 I	2	前	1		15	
	保健学 II	2	後	2		30	
	保健福祉政策論	2	後	1		15	
	統計と情報処理	1	前	1		30	東野定律+ 大久保誠也+ (経営情報学部)
	保健医療統計学	1	後	1		15	松田正己 濱井妙子
	実践保健医療統計学	4	前	1		30	
	疫学	4	前	1		30	
	健康行動論	2	前	1		15	
	医療・看護経済学	2	前		1	15	
	国際看護論	2	後		1	15	
	国際保健	1	後		1	15	松田正己 濱井妙子

注 + ; 他学部教員 ※ ; 非常勤講師

表 4-1-3 平成 21 年度学部基礎科目 (旧カリキュラム : 平成 20 年度以前入学生)

※網掛けの部分は平成 20 年度を最後として今後、開講されない科目

授業科目の名称	配当年次	時期	時間数	単位数		担当教員	
				必修	選択		
学部基礎科目 心と体の理解	人間関係論	1	前	30	1		
	生涯発達心理学	1	前	30	1		
	臨床心理学	2	前	15		1	式守晴子 山本弘一* 藤田美枝子* 黒田文月*
	社会行動論	2	前	15		1	西田公昭
	心理学演習	2	後	30		1	西田公昭
	機能形態学	1	前	60	3		
	生化学	1	前	45	2		
	代謝栄養学	1	後	30	1		
	運動と健康の生理学	1	後	30		1	
	身体運動科学	1	通	60	2		
	人間工学	2	前	15		1	木村達洋*
	病理学	1	後	30	1		
	微生物学	1	後	45	2		
	薬理学	2	前	30	1		伊藤邦彦+ 石川智久+ 小原一男+(薬学部)
	症候論	1	後	30	1		
病態学 I	2	前	30	2		木村正人	

	病態学Ⅱ	2	前	30	2	福地美保*(青葉台福地整形外科消化器科医院) 金山尚裕* 竹内欣哉*(浜松医科大学) 西口富三*(県立こども病院) 前田津紀夫*(前田産婦人科医院) 計5名
	病態学Ⅲ	2	後	30	2	北條博厚*(英和学院大学)
	病態学Ⅳ	2	後	30	2	西村勉*(溝口病院)
	臨床検査学	2	後	15	1	木村正人 金澤寛明
	機能形態学実習	1	後	60	2	
	基礎医学実習	2	前	45	1	木村正人 金澤寛明 日吉孝子 濱井妙子
保健と医療の理解	保健学Ⅰ	1	前	15	1	
	保健学Ⅱ	1	前	30	2	松田正己 濱井妙子
	保健医療情報学	2	前	30	1	西田公昭 柳修平*(東京女子医科大学)
	医療論	1	前	15	1	
	保健医療福祉論Ⅰ	2	前	15	1	松田正己
	保健医療福祉論Ⅱ	2	後	30	2	松田正己 江原勝幸+(短期大学部)
	医療経済学	4	前	15	1	寺岡加代*(東京医科歯科大学)
	国際保健学	4	前	15	1	松田正己 濱井妙子
	基礎統計学	1	後	30	1	
英語コミュニケーション	基礎英語	1	通	60	2	
	応用英語	2	前	30	1	ヘンマン+(言語コミュニケーション研究センター)
	英語講読	1	前・後	30	1	
	看護英語講読	1	前	30	1	岡部香代子*
	英会話	2	前・後	30	1	マデン+, ノリス+(言語コミュニケーション研究センター)
	看護英会話	2	前・後	30	1	岡部香代子*

注 + ; 他学部教員 ※ ; 非常勤講師

表 4-1-4 平成 21 年度専門教育科目（新カリキュラム：平成 21 年度入学生）

※ 網掛けの部分は次年度以降開講する科目

授業科目の名称		配当 年次	時 期	単位数		時間 数	担当教員	
				必修	選択			
専門教育科目	看護の 基盤	看護学概論	1	前	2		30	小寺栄子
		看護理論	1	後	1		15	古川文子
		看護過程	2	前	1		30	
		看護と安全	2	前	1		30	
		看護と倫理	2	後	1		15	
		対象の理解Ⅰ(成人看護学)	1	後	1		15	古川文子
		対象の理解Ⅱ(老年看護学)	2	前	1		15	
		対象の理解Ⅲ(母性看護学)	2	前	1		15	
		対象の理解Ⅳ(精神看護学)	2	前	1		15	
		対象の理解Ⅴ(小児看護学)	2	後	1		15	
		家族看護論	2	後	1		15	
	ヘルスプロモーション・健康教育論	2	後	1		30		
	看護 実践Ⅰ	ヘルスアセスメント技術	1	後	2		45	寺内英真 小寺栄子 岡本恵里* 佐藤智子 酒井見名子
		基礎看護技術Ⅰ	1	後	2		60	寺内英真 佐藤智子 酒井見名子
		基礎看護技術Ⅱ	2	前	1		30	
		基礎看護技術Ⅲ	2	後	1		30	
		成人看護学Ⅰ	2	後	2		45	
		成人看護学Ⅱ	3	前	2		45	
		成人看護学演習	3	前	1		30	
		老年看護学	2	後	2		45	
		老年看護学演習	3	前	1		30	
		母性看護学Ⅰ	2	後	1		15	
		母性看護学Ⅱ	3	前	1		30	
		母性看護学演習	3	前	1		30	
		精神看護学Ⅰ	2	後	1		15	
		精神看護学Ⅱ	3	前	1		30	
		精神看護学演習	3	前	1		30	
小児看護学		3	前	2		45		
小児看護学演習	3	前	1		30			
在宅看護論	3	前	2		45			
リハビリテーション看護	2	後	1		15			
ターミナルケア	4	前	1		15			

		地域看護学	2	前	2		30	
		地域アセスメント論 I	3	前	2		30	
		地域アセスメント論 II	4	前	1		15	
		地域看護支援論 I	3	前	1		15	
		地域看護支援論 II	4	前	1		30	
		地域看護学演習	4	前	1		30	
	看護実践Ⅱ	ケア場面実習	1	後	1		45	小寺栄子 寺内英真 日吉孝子 佐藤智子 酒井見名子
		看護アセスメント実習	2	前	2		90	
		成人看護学実習 I	3	後	2		90	
		成人看護学実習 II	3	後	2		90	
		成人看護学実習 III	4	前	2		90	
		ライフサイクル実習	1	前	1		45	三輪真知子 野村千 文 長谷川喜代美
		老年看護学実習 I	2	後	1		45	
		老年看護学実習 II	3	後	2		90	
		母性看護学実習	3	後	2		90	
		精神看護学実習	3	後	2		90	
		小児看護学実習	3	後	2		90	
		在宅看護実習	3	後	2		90	
		地域看護学実習 I	3	後	1		45	
		地域看護学実習 II	4	前	2		90	
		発展看護実習	4	通	2		90	
専門教育科目	看護の役割と発展	看護管理論	4	後		1	15	
		看護教育論	4	後		1	15	
		最新看護の動向	4	後		1	15	
		リスクマネジメント	4	後		1	15	
		看護政策論	4	後		1	15	
		災害看護演習	4	後		1	30	
		総合看護技術演習	4	後		1	30	
		チーム医療演習	4	後		1	30	
		災害看護	2	前	1		15	
		看護研究	3	前	1		30	
		卒業研究	4	通	2		60	

注 + ; 他学部教員 ※ ; 非常勤講師

表 4-1-5 平成 21 年度学部基礎科目（旧カリキュラム：平成 20 年度以前入学生）

※網掛けの部分は平成 20 年度を最後として今後、開講されない科目

授業科目の名称	配当年次	時期	時間数	単位数		担当教員
				必修	選択	
人間関係論	1	前	30	1		
生涯発達心理学	1	前	30	1		
臨床心理学	2	前	15		1	式守晴子 山本弘一* 藤田美枝子* 黒田文月*
社会行動論	2	前	15		1	西田公昭
心理学演習	2	後	30		1	西田公昭
機能形態学	1	前	60	3		
生化学	1	前	45	2		
代謝栄養学	1	後	30	1		
運動と健康の生理学	1	後	30		1	
身体運動科学	1	通	60	2		
人間工学	2	前	15		1	木村達洋*
病理学	1	後	30	1		
微生物学	1	後	45	2		
薬理学	2	前	30	1		伊藤邦彦+ 石川智久+ 小原一男+ (薬学部)
症候論	1	後	30	1		
病態学Ⅰ	2	前	30	2		木村正人
病態学Ⅱ	2	前	30	2		福地美保*（青葉台福地整形外科消化器科医院） 金山尚裕* 竹内欣哉*（浜松医科大学） 西口富三*（県立こども病院） 前田津紀夫*（前田産婦人科医院） 計 5 名
病態学Ⅲ	2	後	30	2		北條博厚*（英和学院大学）
病態学Ⅳ	2	後	30	2		西村勉*（溝口病院）
臨床検査学	2	後	15	1		木村正人 金澤寛明
機能形態学実習	1	後	60	2		
基礎医学実習	2	前	45	1		木村正人 金澤寛明 日吉孝子 濱井妙子
保健学Ⅰ	1	前	15	1		
保健学Ⅱ	1	前	30	2		松田正己 濱井妙子
保健医療情報学	2	前	30	1		西田公昭 柳修平*（東京女子医科大学）
医療論	1	前	15	1		
保健医療福祉論Ⅰ	2	前	15	1		松田正己
保健医療福祉論Ⅱ	2	後	30	2		松田正己 江原勝幸+（短期大学部）
医療経済学	4	前	15		1	寺岡加代*（東京医科歯科大学）
国際保健学	4	前	15		1	松田正己 濱井妙子
基礎統計学	1	後	30	1		

英語コミュニケーション	基礎英語	1	通	60	2		
	応用英語	2	前	30		1	ヘンマン+ (言語コミュニケーション研究センター)
	英語講読	1	前・後	30	1		
	看護英語講読	1	前	30	1		岡部香代子*
	英会話	2	前・後	30		1	マデン+、ノリス+ (言語コミュニケーション研究センター)
	看護英会話	2	前・後	30	1		岡部香代子*

注 + ; 他学部教員 ※ ; 非常勤講師

表 4-1-6 平成 21 年度専門教育科目 (旧カリキュラム : 平成 20 年度以前入学生)

※網掛けの部分は平成 20 年度を最後として今後、開講されない科目

授業科目の名称	配当年次	時期	時間数	単位数		担当教員
				必修	選択	
看護の基礎	看護の基礎	1	前	30	2	
	対象の理解 I	1	後	30	2	
	対象の理解 II	2	後	15	1	山本美智代*・種吉啓子* (首都大学東京)
	対象の理解 III	2	前	15	1	松岡恵 太田尚子
	基礎看護の方法 I	1	前	60	2	
	基礎看護の方法 II	1	後	45	2	
	基礎看護の方法 III	2	前	60	2	日吉孝子 小寺栄子 寺内英真 岡本恵里* 佐藤智子 酒井見名子
	看護研究	2	後	15	1	白尾久美子 石村佳代子
発達段階・場に応じた看護方法	成人看護の方法 I	2	前	45	2	古川文子 奥原秀盛 池田和恵
	成人看護の方法 II	2	通	45	2	古川文子 白尾久美子 井下裕子
	老人看護の方法	2	前	30	1	野村千文 繁田佳映
	小児看護の方法	3	前	45	2	中垣紀子* (日本赤十字豊田看護大学) 美濃祐紀子
	母性看護の方法 I	2	後	15	1	松岡恵 勝又里織
	母性看護の方法 II	2	後	30	1	西口富三* (県立こども病院)
	母性看護の方法 III	3	前	45	2	松岡恵 太田尚子
	精神看護の方法	3	前	45	2	式守晴子 石村佳代子 河内俊二
	在宅看護	4	前	30	1	原礼子 (慶應義塾大学看護医療学部)
	リハビリテーション看護	2	後	15	1	諸伏悦子* (NTT 東日本伊豆病院)
	ターミナルケア	4	前	15	1	奥原秀盛
	地域看護の方法 I	3	前	30	2	三輪眞知子 長谷川喜代美
	地域看護の方法 II	3	前	45	2	三輪眞知子 長谷川喜代美 上田真仁
	地域看護の方法 III	4	前	45	2	三輪眞知子 長谷川喜代美 上田真仁
成人・老人 看護方法演習	3	前	30	1	奥原秀盛 白尾久美子 野村千文 池田和恵 井下裕子 繁田佳映 山田理絵	
小児看護方法演習	3	前	30	1	中垣紀子* (日本赤十字豊田看護大学) 美濃祐紀子	

理論と実践の統合	母性看護方法演習	3	前	30	1	松岡恵 太田尚子 山田貴代 ウッド小池奈津子 鈴木恵 [河合蘭* (お産ジャーナリスト)、中根直子*・梅崎百合子* (日本赤十字医療センター) 畑中洋子* (国際フケーションコンサルタント)] 計9名
	精神看護方法演習	3	前	30	1	式守晴子 石村佳代子 河内俊二
	地域看護方法演習	4	前	30	1	三輪真知子 長谷川喜代美 上田真仁
	基礎看護実習Ⅰ	1	後	45	1	
	基礎看護実習Ⅱ	2	後	90	2	小寺栄子 寺内英真 日吉孝子 佐藤智子 酒井見名子
	成人看護実習Ⅰ	3	前	90	2	古川文子 奥原秀盛 白尾久美子 野村千文 池田和恵 井下裕子 繁田佳映 山田理絵
	成人看護実習Ⅱ	3	後	180	4	古川文子 奥原秀盛 白尾久美子 池田和恵 井下裕子 山田理絵
	老人看護実習	3	後	90	2	野村千文 繁田佳映 井下裕子
	小児看護実習	3	後	90	2	美濃祐紀子
	母性看護実習	3	後	90	2	松岡恵 太田尚子 勝又里織 山田貴代 鈴木恵
看護の発展と探求	看護・医療倫理	2	後	15	1	岡本恵里*
	看護と保健医療福祉	2	後	15	1	深江久代+ (短期大学部)
	看護管理論	2	後	15	1	小寺栄子
	看護教育論	4	前	15	1	小寺栄子
	看護理論	2	後	15	1	古川文子
	国際看護事情	2	後	15	1	松田正己
	特定領域看護	4	通	15	1	看護系教授
	発展看護実習	4	通	135	3	看護系講師以上の教員 (一部領域は助教も含む)
	卒業研究	4	通	120	4	講師以上の教員
助産学	助産学Ⅰ	3	前	30	1	松岡恵 太田尚子 岡本美和子* (日本体育大学女子短期大学部) 草野恵子* (くさの助産院) 河合蘭* (お産ジャーナリスト) 計5名
	助産学Ⅱ	3	前	30	1	金山尚裕* (浜松医科大学) 成瀬寛夫*・村越毅* (聖隷浜松病院) 住本和博* (川崎市立看護短期大学) 計4名
	助産学Ⅲ	4	前	60	2	松岡恵 太田尚子
	助産学Ⅳ	4	前	30	2	松岡恵 太田尚子 山田貴代 ウッド小池奈津子 鈴木恵
	助産学実習	4	後	225	5	松岡恵 太田尚子 勝又里織 山田貴代 鈴木恵

注 + ; 他学部教員 ※ ; 非常勤講師

(2) 研究科カリキュラム

本研究科の教育は、人間尊重の理念を基礎とし、①豊かな人間性と見識をもった看護専門職の育成、②生命緒科学と連携し、看護科学の高度な専門知識や技術を修得した人材育成、③看護科学の発展に寄与する研究や人材開発能力を修得した人材育成、④国際保健の分野を含め、広く社会のニーズに的確に対応できる人材の育成を、目標としている。

カリキュラムは共通科目（看護学共通科目・他領域連携科目）と専門科目から構成されている（表4-1-1参照）。看護学共通科目では、看護学の実践。教育・研究の土台となる理論や技法を学ぶ、専門科目では、看護の特定の領域における専門的知識や技術および研究的思考と手技を学ぶ。専門分野は、看護技術学分野を新設し、平成21年度に表4-1-1に示すように8領域となった。

表4-1-7 平成21年度大学院研究科授業科目及び担当教員一覧表

領域	科目名	単位数		担当教員	
		必修	選択		
共通科目	看護学共通科目	研究法Ⅰ	2	教授 紙屋克子、教授 三輪眞知子、准教授 白尾久美子	
		研究法Ⅱ	2	教授 紙屋克子、教授 松岡 恵、准教授 太田尚子、非常勤講師 松尾ひとみ 准教授 西田公昭	
		看護理論		2	教授 紙屋克子、教授 古川文子、非常勤講師 西村ユミ
		看護倫理		2	非常勤講師 岡本恵里
		看護と医事法		2	教授 紙屋克子
		看護教育論		2	教授 小寺栄子、准教授 白尾久美子
		看護政策論		2	教授（兼担）小山秀夫（経営情報学研究科）、非常勤講師 齋藤訓子
		看護と保健医療経済		2	非常勤講師 岩下清子
		コンサルテーション論		2	教授 式守晴子、非常勤講師
		家族看護論		2	教授 式守晴子、非常勤講師
		在宅看護論		2	非常勤講師
		感染看護論		2	非常勤講師 青木和恵、岩本義久
	看護情報学特論		2	教授（兼担）鈴木直義（経営情報学研究科）、非常勤講師 竹内登美子	
	病態生理学		2	教授 木村正人	
	生体構造機能論		2	教授 金澤寛明	
	免疫学		2	非常勤講師 岩本義久	
	社会人間行動論		2	准教授 西田公昭	
	臨床心理学論考		2	非常勤講師 永井洋子	
	国際保健医療論		2	教授 松田正己、非常勤講師 神馬征峰	
	英文科学論文講読		2	教授 古川文子	
共通科目	他領域連携科目	病態薬学特論		2	教授（兼担）森本達也（薬学研究科）
		微生物学特論		2	教授（兼担）今井康之（薬学研究科）
		臨床栄養学特論		2	教授（兼担）熊谷裕通（生活健康科学研究科）

		環境影響特論	2	教授(兼担)吉岡寿、教授(兼担)桑原厚和(環境科学研究所)他	
		現代社会研究 I	2	教授(兼担)犬塚協太(国際関係学研究科)	
		経営組織論特論	2	講師(兼担)奥村昭博(経営情報学研究科)	
専門科目	保健・医療システム学	保健・医療システム学特論	2	☆教授 松田正己	
		保健・医療システム学演習	2	教授 松田正己	
		保健・医療システム学応用実習	2	教授 松田正己	
		保健・医療システム学特別研究	8	教授 松田正己	
	看護技術学	看護技術学特論 I, II, III	2	☆教授 紙屋克子 I, II, III	
		看護技術学演習 I, II, III	2	教授 紙屋克子 I, II, III	
		看護技術学応用実習 I, II, III	2	教授 紙屋克子 I, II, III	
		看護技術学特別研究	8	教授 紙屋克子	
	看護管理学	看護管理学特論	2	☆教授 小寺栄子、非常勤講師 勝原裕美子	
		看護管理学演習	2	教授 小寺栄子	
		看護管理学応用実習	2	教授 小寺栄子	
		看護管理学特別研究	8	教授 小寺栄子	
	地域看護学	地域看護学特論	2	☆教授 三輪真知子、非常勤講師	
		地域看護学演習	2	教授 三輪真知子、(予定教員)	
		地域看護学応用実習	2	教授 三輪真知子、(予定教員)	
		地域看護学特別研究	8	教授 三輪真知子	
	成人・老人看護学	成人・老人看護学特論 I, II, III	2	☆教授 古川文子 I、☆准教授 白尾久美子 II、☆准教授 奥原秀盛 III	
		成人・老人看護学演習 I, II, III	2	教授 古川文子、准教授 野村千文 I、准教授 白尾久美子 II、准教授 奥原秀盛 III	
		成人・老人看護学応用実習 I, II, III	2	教授 古川文子、准教授 野村千文、准教授 白尾久美子、准教授 奥原秀盛	
		成人・老人看護学特別研究 I, II, III	8	教授 古川文子 I、准教授 白尾久美子 II、准教授 奥原秀盛 III	
	母性看護学	母性看護学特論	2	☆教授 松岡恵、准教授 太田尚子	
		母性看護学演習	2	教授 松岡恵、准教授 太田尚子	
		母性看護学応用実習	2	教授 松岡恵、准教授 太田尚子	
		母性看護学特別研究	8	教授 松岡恵	
	専門科目	小児看護学	小児看護学特論	2	教授 (選考中)
			小児看護学演習	2	教授 (選考中)
			小児看護学応用実習	2	教授 (選考中)
			小児看護学特別研究	8	教授 (選考中)

	精神 看護 学	精神看護学特論		2	☆教授 式守晴子
		精神看護学演習		2	教授 式守晴子
		精神看護学応用実習		2	教授 式守晴子
		精神看護学特別研究		8	教授 式守晴子

☆ 主指導教員

2) 学生の研究

(1) 学部の指導体制と研究テーマ

学部生の卒業研究の調整は、3年次1月に学生に研究テーマと指導教員の希望を提出させた。教員の学生担当数をあらかじめ設定し、教員および学生の卒業研究調整委員ができるだけ希望に添うように配置した。指導教員の指導の下に学生は、約1年かけて研究テーマを追求し論文としてまとめた。結果、表4-2-1にあげた卒業研究が2010年1月6日（水）午後5時を期限として提出された。その研究要旨は、「平成21年度卒業生研究要旨集」として発刊し、臨地実習施設ならびに臨地実習機関等に配布した。

表4-2-1 平成21年度看護学部卒業研究題目一覧

氏名	卒業研究題目	指導教員
足立 佳菜子	「親の死後の処置」における小児に対する看護師の関わりと影響要因	奥原 秀盛
飯田 睦美	舌苔ブラシを使用することによる味覚の変化	金澤 寛明
池田 直波	Ⅱ型糖尿病患者の口腔ケアの認識と実態	奥原 秀盛
岩本 かな	特定健康診査受診行動に影響する要因の検討の研究	三輪眞知子
植松 あゆみ	看護学部生の健康観に関する心理学的研究	西田 公昭
大塚 一寛	パリアンス発生時の患者に対する看護師の心理的援助に関する研究	白尾久美子
興津 美希	遷延性意識障害患者とのコミュニケーションに関する検討 ～看護師への意識調査～	野村 千文
奥山 文佳	精神科看護師の精神障害者に対するイメージ	石村佳代子
尾崎 紘史	地震発生時の避難における高齢者のニーズ - 独居高齢者、高齢者世帯、家族との同居高齢者世帯の比較を通して -	三輪眞知子
小関 美穂	「養護教諭に求める役割」 —大学1年生を対象として—	石村佳代子
小田巻 由夏	おむつ内の温湿度の変化について	金澤 寛明
御倉 知亜紀	大学生のうつ病に対する知識と対処行動の実態 -医療系学生と非医療系学生の比較から考える-	式守 晴子
加藤 汐梨	クリニカルパス計画変更患者のパス使用中における心理変化と影響要因	寺内 英真
北澤 未来	地域で生活する精神障害者の服薬を継続可能にする要因	式守 晴子
工島 直子	ターミナルケアにおける看護師のネガティブな感情の要因とその対処に関する文献検討	野村 千文

氏名	卒業研究題目	指導教員
鈴木 麻希	両親間の攻撃的場面の目撃経験がその子どもの心理に及ぼす影響	西田 公昭
小塚 彩那	視覚（特に色覚）が味覚を左右させるかを検討する研究	金澤 寛明
小原 麻美	1歳6か月健診における保護者の満足感に関連する要因の検討	三輪眞知子
小林 真弓	高齢者の治療選択における自己決定に対する看護師の援助に関する研究	白尾久美子
酒井 さおり	右腎残存量が左腎組織病変の進行に及ぼす影響－炎症と線維化の関連についての免疫組織学的検討－	木村 正人
坂田 鮎美	高校生のコンタクトレンズの使用状況と学校保健におけるコンタクトレンズ使用方法に関する指導のあり方	長谷川喜代美
佐々木 由貴	認知症高齢者の心のケアに関する研究 グループホームにおける施設環境づくりと職員の関わりの実態に関する調査	野村 千文
佐野 由布	お茶による味覚変化についての検討	金澤 寛明
島野 幸穂	医療療養型病棟に勤務する看護職の身体拘束および身体拘束廃止に対する認識	小寺 栄子
清水 実里	入所中の重症心身障害者とその家族への支援 －成人後の重症心身障害者を対象に家族の変化から考える－	式守 晴子
下出 怜奈	微小血管梗塞による慢性腎不全モデルの免疫組織化学検討 －萎縮尿細管病変の出現と増殖反応－	木村 正人
鈴木 美沙保	“笑い・ユーモア”の心身への効果に関する文献的考察	白尾久美子
高橋 明里	心肺蘇生法の普及に向けた一般の人々への心肺蘇生法に関する実施要因の検討	白尾久美子
高橋 江里奈	がん告知を受けた患者が看護師に求めること	石村佳代子
立石 弓絵	退院後の大腸がん体験者のがんの体験に関する心理状況とストレス・コーピング	寺内 英真
土屋 有希	マスク着用者に対する印象とその判断箇所に関する調査研究	寺内 英真
寺西 舞子	多発性微小血管梗塞モデルにおける慢性腎不全の進行とレニン・アンジオテンシン系(RAS)の関連	木村 正人
戸塚 緑梨	学校保健委員会の活性化を図るための養護教諭の活動方法	長谷川喜代美

氏名	卒業研究題目	指導教員
土井 奈保子	携帯電話の細菌汚染の実態および汚染を予防するための一考察	日吉 孝子
那須 美友紀	ペリネイタル・ロスにおけるセルフヘルプグループの心理的影響に関する文献的考察	太田 尚子
野元 香織	急性期統合失調症患者の家族支援	石村佳代子
羽田 麻梨実	要介護高齢者と関わる家族介護者の心理的支援に関する研究 ～抑うつに影響する因子と支援に関する文献的考察～	野村 千文
伏見 有希	妊婦の運動・スポーツが母児に及ぼす影響と効果	松岡 恵
藤田 亜弓	看護学生の生活行動とコンタクトレンズ使用実態に関連した眼の健康について	日吉 孝子
三上 佳澄	高齢者虐待防止ネットワークの構築について ー静岡県内 2 自治体の調査から見えてきた高齢者虐待防止対策の現状ー	野村 千文
水口 美樹	認識が曖昧な身体拘束の項目に関する看護師の意識調査	白尾久美子
村瀬 光沙	新型インフルエンザ流行時における看護学生の感染予防に対する意識と予防行動の実態に関する調査	日吉 孝子
村田 恵梨	ターミナル期にある患者の希望を支える看護援助に関する研究	奥原 秀盛
村田 京	地域における精神障害者の SHG 活動と専門職の関わり	式守 晴子
村松 尚子	乳房温存療法を受けた乳がん患者の退院後の生活に対する思い	寺内 英真
村松 美里	軽度発達障害の疑いがある児を持つ親に対する保健師の効果的な支援のあり方	長谷川喜代美
吉田 千歳	産痛緩和を目的とした非薬物的ケアに関する文献的考察	太田 尚子
吉田 有希	胃切除後の食生活の変化から生じる退院後の生活における困難	奥原 秀盛
渡部 翔子	ペットボトル飲料の口飲みによる細菌汚染の実態	日吉 孝子
渡部 萌	精神科看護師が感じる精神障害者への地域社会にある偏見	石村佳代子
山本 久美子	産後の体重減少に関連する要因	松岡 恵
齋藤 真莉	大学生の痩せ志向についての実態的研究	西田 公昭

氏名	卒業研究題目	指導教員
赤堀 安有美	2型糖尿病患者の定期受診から次の受診までの経験	奥原 秀盛
入江 和可奈	ペリネイタル・ロスを経験した両親へ「望まれるケア」を浸透させていくための要因 —望まれるケアとケアの現状の比較を通して—	太田 尚子
大塚 弓子	分娩第2期の体位が分娩経過に与える影響に関する文献的考察	太田 尚子
加藤 美樹	看護学生のバーンアウト傾向についての検討	西田 公昭
菊地 良枝	妊産婦の出産満足度に影響する要因についての文献調査研究	太田 尚子
澤山 千鶴	幼児期からの家庭における性教育を促進するための援助のあり方	長谷川喜代美
新貝 里彩	健康リスク状況における意思決定の研究	西田 公昭
杉山 千亜紀	妊婦と授乳婦の食生活とそれに関連する要因	松岡 恵
平生 祐一郎	足浴のリラクゼーション効果に関する文献研究	寺内 英真
望月 彩加	「特定保健指導を受けた者の健康行動実践状況とそれに関連する要因の検討」	三輪眞知子
劔持 富美子	子どもの生活習慣病と「食育」に関する研究—日本と諸外国の比較から—	松田 正己

4. 入学生・卒業生・修了生の動向

1) 学生定員および在籍学生数

(1) 学部

看護学部の入学定員は1年次55名、3年次編入学10名であり、収容定員は計240名である。過去3年間の在籍者数を表5-1-1に示した。

表5-1-1 学部定員および在籍者数

年度	学部定員	在籍者数
平成19年度	240	252
平成20年度	240	243
平成21年度	240	243

表5-1-2 学部定員および学生数（事務）

	1年生	2年生	3年生	3年編入生	4年生	4年編入生	合計
学部定員	55	55	65		65		240
在籍者数	57	56	56	10	53	11	243
休学者数	0	2	0	0	0	0	2
退学者数	0	1	1	0	1	0	3

※在籍者数は21年度当初、休学者は21年度末、退学者数は21年度内の数字

(2) 研究科

看護学研究科の入学定員は16名、収容定員は32名である。平成21年度の在籍者数は、表5-1-2に示すとおり、1年7名、2年12名である。

表5-1-3 研究科定員および在籍学生数

	1年生	2年生	合計
入学定員	16	16	32
在籍者数	7	12	19
休学者数	0	2	2
退学者数	0	0	0

※在籍者数は21年度当初、休学者は21年度末、退学者数は21年度内の数字

2) 入学志願者数および入学者数とその背景

(1) 学部

平成 22 年度の各入学試験志願者数（受験者数）は社会人特別選抜は 10（10）→10(10)、編入学特別選抜 81（69）→51（42）、推薦入試 46(46)→47(47)、一般前期 59(58)→89(88)、一般後期 51→69 と社会人、推薦が前年度と同じで、編入学が減少であったのに対して、一般前期、後期ともに増加した。一般前期に関しては隔年現象があり、増減をしており、本年度の試験は増加の年に当たるので予想はされていた。もっとも看護系大学数が未だ増加の一途にあり、かつ三島に順天堂大学の看護学部が開学したことを含めて考えると、これは不況により、看護師などの資格取得が就職に有利に働くとの指向も加わったと考えられる。入学者の県内外の割合は静岡県内からの入学者が圧倒的に多い。これも経済状況および各県における 4 年生学部の充足が主要な原因と考えられる。

表 5-2-1 平成 21 年度入学志願者数および入学者数

	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 (県内)
一般前期	35	59	58	40	39 (35)
一般後期	5	51	51	5	0 (0)
推薦	15	46	46	15	15 (15)
社会人	若干名	10	10	3	2 (1)
編入学	10	81	69	15	10 (5)
合計	65	247	234	78	66 (56)

表 5-2-2 平成 22 年度入学志願者数および入学者数

	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 (県内)
一般前期	35	89	88	38	38(36)
一般後期	5	69	69	5	1(1)
推薦	15	47	47	15	15(15)
社会人	若干名	10	10	2	2(2)
編入学	10	51	42	15	10(4)
合計	65	266	256	75	65(57)

(2) 研究科

表 5-2-3 研究科の入学志願者数および入学者数とその背景

	平成 18年度	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度
入学志願者	15	6	11	8	10
入学者数	11	4	9	7	8
(うち社会人特別入学)	(2)	(2)	(1)	(2)	(6)

3) 卒業・修了生の進路状況

(1) 学部

過去3年間の卒業後の進路を表5-3-1に示した。(平成22年3月1日現在)
平成21年度は、卒業後も県内にとどまる傾向がみられる。

表 5-3-1 学部卒業生進路

年度	性別	卒業 者数	就職 決定 者数	就職 活動 中	その 他※	未 確 認	採用職種別				施設の場 所		進 学・ 留 学
							看 護 師	保 健 師	助 産 師	そ の 他	県 内	県 外	
平成 一九 年度	男	3	3	0	0	0	3	0	0	0	2	1	0
	女	70	67	1	0	0	57	7	3	0	45	22	2
	計	73	70	1	0	0	60	7	3	0	47	23	2
平成 二十 年度	男	5	5	0	0	0	4	1	0	0	2	3	0
	女	59	55	0	3	0	38	9	8	0	35	20	1
	計	64	60	0	3	0	42	10	8	0	37	23	1
平成 二十 一年 度	男	3	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
	女	60	58	0	2	0	43	5	8	0	45	11	2
	計	63	59	0	2	0	44	5	8	0	46	11	4

※家事従事など

(2) 研究科

平成 21 年度の修了生は 7 名である。近年の学生の修了後の進路状況は、表 5-3-2 に示すとおりである。看護職として実践の場に戻る学生と大学の教員になる学生に分かれている。

表 5-3-2 修了後の進路状況

年度	修了生	採用職種別					進学・留学
		看護師	保健師	助産師	教職	その他	
平成 17 年度	5	1	0	0	0	4	0
平成 18 年度	6	2	2	0	2	0	0
平成 19 年度	10	6	1	0	1	2	0
平成 20 年度	0	0	0	0	0	0	0
平成 21 年度	7	2	0	0	1	4	0

4) 免許・資格などの取得状況

過去 3 年間の新卒者の看護師・保健師・助産師の国家資格取得状況を表 5-4-1 に示した。平成 21 年度は、例年に比較し、全国的な保健師・助産師の合格率が大幅なダウンとなった。

表 5-4-1 免許・資格などの取得状況

	看護師	保健師	助産師
平成 19 年度	63/64	67/73	4/5
	(98.4)	(91.8)	(80.0)
平成 20 年度	53/54	62/63	10/10
	(98.1)	(98.4)	(100.0)
平成 21 年度	52/52	60/63	10/10
	(100.0)	(95.2)	(100.0)

() 内は合格者数/受験者数の百分率

5. 看護学部・看護学研究科の教育・研究・地域貢献活動

1) 教員の教育・研究・地域貢献活動

(1) 専門基礎領域の活動

① 医学系教員の活動

<教育活動>

木村正人

1年の前期に始まる「健康と社会」では、現実の医療の中には種々の問題が内在することを知り、これからの4年間常に問題意識をもって学習に取り組むような動機付けをするように工夫している。医療者として最も大切なのは知識ではなく、事象の裏にある問題点をかぎつける感性であり、当たり前と知っていることに疑問を持つ姿勢であると考えている。そのような感性が結果として患者さんを守る大きな力を生むことになる。

症候論はいろいろな疾患に横断的に存在する主な症候（身体に現れた病的変化）の原因と持つ意味を知り、臨床の場で自由に応用できることを目的としている。これには生理学の知識が必須であり、生理学の講義を臨床的な目から補完する小テストを行いながら、講義を進める。患者の状態のアセスメントにも症候論の知識は必須のものである。

病態学では主に臓器別の個々の疾患のうち、最も重要なものを選択して病態を講義するようにしている。一方で看護師として知っていてほしい疾患は多数あり、その概要は自己学習で補ってもらわなければならない。講義時間の絶対的不足が悩みの種である。

金澤寛明

機能形態学では、1年生を対象に、医療の基本となる解剖・生理学を教育している。大学に入ってすぐに開講されている講義であり、その導入はいつも考えさせられるところであるが、なるべく、それぞれの器官や臓器が全身の働きの中でどのような役割を担っているかを理解してもらうよう努力している。

昨年度まで1年後期で実施していた機能形態学実習は、本年度からの新カリキュラムでは基礎健康科学演習の一部に変更になり、機能形態学実習＋基礎医学実習のあわさったものとなった木村正人教授、日吉孝子講師、濱井妙子助教と共に講義で学んだ平面的な知識を3次元、4次元で理解することを目的とした。旧カリキュラムからの移行期にあたり、前期に2年の基礎医学実習も実施した。

病理学では、機能形態学から発展させて、疾患の構造的変化を理解させている。おもに、炎症、腫瘍、免疫が中心となっている。

臨床検査学は木村正人教授とともに実施した。

日吉孝子

看護における感染対策の必要性は広く認識されるようになった。それに伴い、医療全般における感染対策へと視野が広がりあらゆる医療現場へとその対象も拡大している。我々看護職は、患者の安全、医療者の質を高めるためにも適切な実践的対策を取ることが必要であり、看護師自らがその原因を突き止め、策を講じていける力をつけ、さらに研究を発展させていく必要がある。そこで、現在行われている微生物学の講義や基礎健康科学実習、新カリキュラムによる開講科目である看護と安全、基礎看護演習を現実に即したものに発展させることができるように取り組んでいる。これにより学生が「専門性をもった看護職」となるための意識を高めることができ、実習の場や臨床の場で遭遇する事例に対する具体的で実践的な示唆を与えることができるような教育を目指している。

また、環境健康論では、人々が暮らす生活や環境の中で健康が影響されることことを理理解させることにより病気の人を視ることへつながるように教授した。

その他、基礎看護実習Ⅰ、基礎看護実習Ⅱ、ケア場面実習、発展看護実習における実習施設責任者および学生実習の指導にあたった。

濱井妙子

基礎健康科学実習では、1年生を対象に、人の健康状態を多面的に判断できる能力を実践的に身につけること（前半）と、人の健康に影響を与える身の回りの病因を知り対応できる能力を養うこと（後半）を目標に実験実習の指導を行なっている。前半では、人体標本を用いた肉眼観察、組織標本を用いた顕微鏡観察、ラットの解剖と観察、血球細胞や染色体の標本作製と観察などの解剖学と、血液検査や心電図測定などの生理学・検査法、後半では、微生物の染色検査や手脂の微生物の検出と抗微生物薬の効果判定など微生物学、汚泥や大気の実験分析など環境学に関する実験実習を行なっている。

国際保健学は、4年生と1年生を対象に、地球規模における広範な健康問題や保健医療分野における国際協力の取組みと課題を解説し、地球規模の視野を養うことを目標に教育を行なっている。具体的には、保健医療問題を保健医療分野の側面からのみでなく、開発経済、地球環境や人類学など広範囲な学問の応用的側面から包括的にとらえるアプローチ方法を、できるだけ多くの専門家から学べるような授業展開に努めている。

保健学Ⅱの後半では、3年編入生を対象に、人間集団を対象に健康に関連するいろいろな事象の頻度と分布を観察する方法を解説し、疫学的アプローチ方法を身につけることを目標に教育を行なっている。できるだけ身近な健康に関する事例を多くとり入れ、理解しやすい内容になるよう心がけている。さらに、授業終了前に、その授業で学習した内容の演習問題を解かせて、その授業内容の理解度を学生自身に確認させている。

保健医療統計学では、1年生を対象に、保健医療統計資料の意味を理解しそれを読み取る力をつけることを目標に教育を行なっている。

<研究活動>

木村正人

疾患モデル動物を用いて慢性腎不全の進行因子の解明とその予防法の研究に取り組んでいる。特に、腎臓に密接な関連のあるホルモンであるレニン・アンジオテンシン系の腎障害機序に焦点をあて、そのメカニズムを明らかにする努力を続けている。また、このモデルで対側腎を残しておくと、疾患腎の萎縮と対側腎の肥大という細胞周期における対極的現象が同一個体で観察される。この機序を解明するための研究を進めている。

金澤寛明

現在、薬学部医薬生命科学教室の学生や院生とともに腫瘍新生血管の形態学的検索を中心に研究をおこなっている。また薬学部生化学教室の学生や院生とともに糖鎖による神経伝達に対する調節機能の解明の研究をおこなっている。

日吉孝子

平成19年より科研費の助成を2年間受けて「アスベスト肺に対する常在細菌の急性増悪作用に関する研究」（基盤C）（研究代表者：日吉孝子 他2名）を行ったが、その後も継続して課題に取り組んでいる。また、昨年の教員特別研究費「静岡県立大学・静岡市静岡医師会の連携による地域における感染症流行対策のための看護師教育に関する研究」を受け、地域医療の担い手である診療所看護師の新型インフルエンザに対する認識に関する調査し、その内容をまとめ学会にて報告した。

濱井妙子

主に国際保健学領域、保健医療福祉学領域、看護学領域における研究に取り組んでいる。

平成 18 年度は、昨年度に実施した静岡県西部地域在住のブラジル人市民の健康行動に関する個別面接質問紙調査の結果をまとめ、研究成果を関連学会に発表した。さらに、ブラジル人市民に対する健康問題の正しい理解のための普及・啓発活動の一環として、健康問題に関するポルトガル語版の冊子を作成し、自治体と NPO の協力を得て、ブラジル人市民のための健康調査報告会と無料身体測定ならびに医療情報提供の支援活動を実施した。

平成 19 年度・平成 20 年度には、地域における外国人医療支援を推進していくためのアプローチ方法を模索するために、3 つの地域に在住しているブラジル人を対象にグループ・インタビュー調査を実施した。平成 21 年度は、外国人患者と医療者のコミュニケーションの課題を明らかにするために、医師と薬剤師を対象に質問紙調査を実施した。これらの活動は地域における外国人医療支援の体制作りを推進していくことを目的としている。

【研究業績】

(原著論文)

- 1) Inagaki-Tachibana E., Tsukahara T., Kaji, K., Eguchi, R., **Kanazawa, H.**, Hayashi, H., Suzuki, Y., : Involvement of DNA Fragmentation of Enterocytes in mucosal injury to a mouse jejunum incubated in using chambers., Nagoya J. Med Sci., 2009;71(1-2):11-18.
- 2) Kato, Y., Iwase, M., Ichihara, S., **Kanazawa, H.**, Hashimoto, K., Noda, A., Nagata, K., Koike, Y., Yokota, M.: Beneficial effects of growth hormone-releasing Peptide on myocardial oxidative stress and left ventricular dysfunction in dilated cardiomyopathic hamsters., Circ J., 2010; Jan;74(1):163-70.
- 3) Totsuka T., Higuchi T., Imai T., Nishikawa A., Nohmi T., Kato T., Masuda S., Kinae N., **Hiyoshi K.**, Ogo S., Kawanishi M., Yagi T., Ichinose T., Fukumori N., Watanabe M., Sugimura T., Wakabayashi K., Genotoxicity of nano/microparticles in in vitro micronuclei, in vivo comet and mutation assay systems. *Particle and Fibre Toxicology*, 2009;3: (6):23[Epub]
- 4) Ichinose T., **Hiyoshi K.**, Yoshida S., Takano H., Nishikawa M., Mori I., Kawazato H., Yasuda A., Shibamoto T. Asian sand dust aggravates allergic rhinitis in guinea pigs induced by Japanese cedar pollen., *Inhalation Toxicology*, 2009;21(12):985-993.
- 5) Yoshida S., **Hiyoshi K.**, Oshio S., Takano H., Takeda K., Ichinose T., Effects of fetal exposure to carbon nanoparticles on reproductive function in male offspring. *Fertility and Sterility*, 2009;14 [Epub].

(著書)

- 1) 吉村壽次(編), 化学辞典(第2版)森北出版, 2009;1401-1407.
- 2) **金澤寛明**, 2-44 味覚障害, 2-45 嗅覚障害, 山内豊明(編), ナーシング・グラフィカ 3 病態生理学, メディカ出版, 2010;321-328.
- 3) ジェーン・ダ・バーグ(編), **金澤寛明(訳)**, ビジュアル・アナトミー カラー人体図鑑, 西村書店, 2010.

(学会発表)

- 1) **日吉孝子**, 山元昭二, 井上健一郎, 市瀬孝道, アスベスト肺に対する常在細菌による急性曝露の影響, 第16回日本免疫毒性学会(旭川), 2009年8月.

- 2) 大木秀一, 日吉孝子, 海女を生業とする中高年女性の骨密度に関する研究. 第 68 回日本公衆衛生学会(奈良), 2009 年 10 月.
- 3) 日吉孝子, 上田真仁, 診療所に勤務する外来看護師の新型インフルエンザに対する危機対応に関する意識調査, 第 68 回日本公衆衛生学会(奈良), 2009 年 10 月.
- 4) 濱井妙子, 永田文子, 山田貴代, 地域の外国人診療におけるコミュニケーションの課題と改善策, 第 47 回日本医療・病院管理学会学術総会(東京), 2009 年 10 月.
- 5) 濱井妙子, 永田文子, 山田貴代, 地域医療における在住ブラジル人の受診環境とニーズ, 第 68 回日本公衆衛生学会総会(奈良), 2009 年 10 月.
- 6) 虎頭恭子, 濱井妙子, 在日ペルー人の精神健康に影響を及ぼす異文化ストレスと対処法との関連について, 第 74 回日本民族衛生学会総会(京都), 2009 年 11 月.
- 7) 永田文子, 濱井妙子, 菅田勝也, 地域医療における在住ブラジル人の通訳に関する課題, 第 29 回日本看護科学学会学術総会(千葉), 2009 年 11 月.

<地域貢献活動>

日吉孝子

毎年行われている高校訪問において、本年は富士東高校へ訪問し、学部説明および受験担当教員との意見交換を行った。また、高大連携出張講義においては、静岡県立伊東高校において講義を行った。

② 心理学系教員の活動

<教育活動>

西田公昭

人間関係論では、看護師、保健師、助産師などの職業人としての援助やケアに関わる行為を踏まえ、一般的な対人関係の基本的相互影響過程を教育している。具体的には、家族や友人などの私的関係から職場や地域社会の集団にいたるまでの心理的ダイナミクスをビジュアルにまた体験的に理解させて、良好な関係を築き、維持する行為の実践を目指させている。

社会行動論では、健康心理学に焦点をあてて教育している。具体的には、以下のとおりである。現代人の健康を脅かす要因には、嗜癖や生活習慣がある。人は身体に悪いと知りながらそうした行動を繰り返している場合も多い。また医師や看護師の指導を守らず自殺的な行動をとる人もいる。そうした問題をどう理解するかを心理学的基礎を理解させている。大まかには、1) 態度および社会的認知：医療に関わる社会問題の心理学的理解、2) 行動と精神との相互影響過程：メンタル・ヘルスや治療の社会的要因、3) 行動変容や態度変容の理論的基礎について教育している。

心理コミュニケーション演習（心理学演習）では、体験学習を演習させて、様々な心理に気付かせるとともに、集団教育の手法を習得させている。看護師や保健師として求められる、他者の理解、コミュニケーション、そしてリーダーシップ、集団討議などのゲームに参加しながら学習させている。

保健医療情報学では、保健師や看護師の業務や看護学的研究に必要な情報を収集するときに頻繁に用いる社会調査法についての知識を習得させている。また、得られた情報をどのように処理するのかについての基礎的技法についてコンピュータを用いた実習を行わせることで理解させている。

<研究活動>

西田公昭

カルト団体のテロリズム行動や集団による心理虐待、あるいは詐欺被害の心理といったマインド・コントロール問題の研究をおこなってきた。これらについての研究成果は、著書や論文および国内外の心理学系学会において継続的に発表を続けている。また、認知症などの在宅介護中で生じるストレス問題について、文部科学省の助成を受け、共同研究に取り組んできた。これらの

研究成果は、看護学系学会誌や国内外における心理学系ないし看護学系の諸学会に発表している。

【研究業績】

(著書)

- 1) **西田公昭**, 黒田文月, マインド・コントロールとは何か, 日本脱カルト協会 (編) カルトからの脱会と回復のための手引き, 東京, 遠見書房, 2009, 34-43 頁.
- 2) **西田公昭**, だましの手口: 知らないと損する心の法則, 東京, PHP 新書, 2009.
- 3) **西田公昭**, 宗教とカルト, 日本社会心理学会編, 社会心理学事典, 東京, 丸善, 2009, 380-381 頁.
- 4) **西田公昭**, 幻想の自己, 高木修 (監) 安藤清志 (編), 自己と対人関係の社会心理学, 京都, 北大路書房, 2009.

(学会発表)

- 1) **西田公昭**, 騙しの心理操作: 詐欺・悪質商法の“マインド・コントロール”, 電子情報通信学会, 東京, 2009.
- 2) **Nishida, K.**, Assessment of Group Health: How abusive are cultic groups compared with common groups in our global world. *International Cultic Studies Association, Annual Conference-Geneva*, 2009.
- 3) **西田公昭**, 秋山学振り込め詐欺の社会心理学: 一時的マインド・コントロールの検討 日本応用心理学会, 福岡, 2009.
- 4) **西田公昭**, 渡辺浪二, 角山剛, 山浦一保 2009 社会集団の健康度診断とその事態研究, グローバルな世界から見てカルト集団は通常の集団と比べてどのように問題なのか?, 日本社会心理学会/日本グループ・ダイナミックス合同大会, 大阪
- 5) 渡辺浪二, **西田公昭**, 角山剛, 山浦一保, カルト問題に関する大学学生部への調査 2008, 日本社会心理学会/日本グループ・ダイナミックス合同大会, 大阪, 2009.
- 6) 山田紀代美, **西田公昭**, 原沢優子, 中村恵, 梅田奈歩, 安藤洋子, 前期高齢者の日常生活に関する記憶の実態調査, 日本老年看護学会, 札幌, 2009.

(その他)

◎その他の刊行物

- 1) **Nishida, K.**, The activities of cultic groups to seduce young people whose lives wander and the psychological background: Pressing social problems in present Japan and Workable solutions. *Japanese Journal of Applied Psychology*, vol. 34, 2009;99-116.
- 2) **西田公昭**, 騙される消費者の心理と対策, 消費者情報 5月号, 2009, 8-9 頁.
- 3) **西田公昭**, だまされるには訳がある: 原因別にみる心理とだまされないための対策, 国民生活 8月号, 2009, 18-21 頁.
- 4) **西田公昭**, 「だまされる危険度を自己診断しましょう!」東京都総合消費者センター「東京くらしねっと」3月号, 2010.
- 5) **西田公昭**, 高齢者の消費者トラブル「見守りガイドブック」消費者教育支援センター 3月号, 2010.

<地域貢献活動>

西田公昭

日本グループ・ダイナミックス学会において広報担当の常任理事である。また、マインド・コントロール問題を学際的に検討している日本を代表する機関である日本脱カルト協会の常任理事であり、現在は研究部会長をしている。この問題に関連して、滞在型療養施設であるNPO 法人小諸いずみ会の理事の任にもあり、また啓蒙活動の一環としてマスコミを通じてコメントを出したり、制作協力をおこなったりしている。なお別の活動として、静岡市社会教育委員、静岡朝日テレビ番組審議会委員に任命されている。またその他、一般市民への啓発活動事業に講師として招

かれたり、テレビや新聞、雑誌などマスメディアを通じて発信したりする機会がある。さらには、JAF 静岡支部の交通安全対策委員会の常任委員としても活動している。

③ 保健学系教員の活動

<教育活動>

松田正己

保健学領域では、生活体験が希薄な学生に、社会的な課題を学習してもらうためには、日常的な課題の中から、公衆衛生上の課題に結びつくような授業展開を試みている。具体的には、グループ・ワークを取り入れ、学生の主体的な発表形態で、授業を進めている。但し、学年により、学生の興味も多少変化するので、教科書を中心に、生活で使用している化粧品、食品内の化学物質の安全性等について調べる、また、テレビ・新聞等の中で、公衆衛生関連の事象を調べる等である。特に、最近では、健康と経済格差のことが大きな関心事項である。また、幅の広い視点から問題に接近してもらうため、積極的に、外部での講演なども、聞きに行くように勧めている。更に、問題から入る問題解決指向と、夢から入る課題探索指向の両方を取り入れ、プラス思考の考え方を導入している。また、1-2年生の時から、国家試験を意識して、過去の問題を自分で調べるよう指示を出している。

<研究活動>

松田正己

文部省科研費において、ナノテクノロジーの健康環境影響の研究を進めている。特に、先進的な経験のある英国から研究者を招き、その状況を把握し、国内関連の研究者等とも、学会や研究会の場でコミュニケーションを図った。先端技術としてのナノテクの社会的影響の国際共同研究を通じ、内外のネットワークの形成を計りつつある。

国際保健の領域では、タイのコンケン大学看護学部との協力関係を深めつつあり、相互訪問を行い、特別講演を実施し、日本の経験とタイの経験を交換している。

また、看護倫理の分野では、国際看護倫理雑誌の編集委員を務め、国際的な論文の査読並びに当該分野の動向の把握に努めると共に、年次大会に出席し、編集委員会等で意見を交換した。

また、公衆衛生学、保健学、地域看護学、生命倫理学領域の標準的なテキストの開発に、継続して関わり、本年は特に、これまでの静岡での健康福祉政策の活動経験を、テキストとしてまとめた（4月以降、刊行予定）。

【研究業績】

(原著論文)

- 1) 森下直貴，河原直人，松田正己，村岡潔，大林雅之，「デーミウルゴス」的主体性とその彼方—J.P.デュボイの「ナノエシックスの哲学的基礎づけ」をめぐって—，生存科学，19B，95-111，2009.
- 2) 松田正己，いのちの回復，響き合う街で，49，3-9，2009.
- 3) 江口晶子，中島沙織，松田正己，保健・医療の市場化による国の崩壊と再生の歴史，響き合う街で，49，10-15，2009.
- 4) 野中茂子，松田正己，市町村保健師の専門的能力の認知とその関連要因，保健師ジャーナル，65（6），484-492，2009.
- 5) Matsuda, M.，Geoffrey Hunt，Research on the societal impacts of nanotechnology, A preliminary comparison of USA, Europe and Japan, Bio-medical Materials and Engineering, 2009;19:259-267.

(学会発表)

- 1) 前田樹海，太田勝正，井口弘子，新實夕香理，中村恵，浅沼優子，山内一史，唐澤由美子，

門井貴子, 鈴木千智, 藤井徹也, **松田正己**, 職種および関係性の違いによるカルテ情報の共有範囲, 入院患者を対象とした全国調査より, 日本医療情報学会(広島), 29(Suppl.), 2009年11月

- 2) Chisato SUZUKI, Katsumasa OTA, **Matsuda, M.**, Information sharing of public health nurses in Japan—Ethical dilemma and decision making process—, ICNE, London, Sep., 2009.

(その他)

- 1) 星旦二, **松田正己**, 神馬征峰編著, 系統看護学講座専門基礎8・公衆衛生(第12版), 平成22年, 医学書院.
- 2) **松田正己**, 連載プライマリー・ヘルス・ケア(PhC) 2008, 健康福祉政策情報, 34, 6-33, 8, 2009.
- 3) **松田正己**, 丸井英二他, 在宅療養をささえるすべての人へ, 健康と良い友だち社, 2009.

<地域貢献活動>

行政保健師の指導や保健福祉行政に積極的に関与し、県の総合保健センターの第三者評価委員長、並びに市町村の保健福祉計画等の委員、研修等に協力している。また、住民への教育も、健康づくりの推進員の研修や、当事者、市民への講演などで協力している。

地方自治体への協力としては、静岡市の健康福祉審議会委員として、健康日本21、高齢者、障害者、地域福祉、次世代育成等の諸計画の策定やリハビリテーションセンター等に助言を行ってきたが、本年は特に、健康福祉基本権計画を策定した。また、牧ノ原市の次世代育成・健康日本21等の保健計画にも、助言を行ってきた。

(2) 基礎看護領域の活動

<教育活動>

[新カリキュラムへの移行]

基礎看護学領域の教育内容は、平成21年度の保健師助産師看護師養成所指定規則の改正により平成21年度の入学生より新しい教育内容がスタートした。基礎看護学領域の教育は主に1年生、2年生を対象に教育を行っているが、平成21年度は新・旧のカリキュラムを同時平行して開講した。新カリキュラムが適用される1年生に対しては前期には「看護学概論」、後期には「基礎看護技術Ⅰ」「ヘルスアセスメント技術」「ケア場面実習」が開講された。旧カリキュラムが適用される2年生に対しては、前期に「基礎看護の方法Ⅲ」、後期に「基礎看護実習Ⅱ」が開講された。

基礎看護学の新カリキュラムは、「看護学概論」「基礎看護技術Ⅰ」「基礎看護技術Ⅱ」「基礎看護技術Ⅲ」「ヘルスアセスメント技術」「看護過程」「ケア場面実習」「看護アセスメント実習」の8科目から構成されている。また基礎看護領域と専門基礎領域が協力して、ひとを身体的・心理的・精神的に統合して捉え看護援助の必要性を見出すための科目として、「看護と安全」「看護統合セミナー」が設けられている。「ヘルスアセスメント技術」と「看護過程」は、旧カリキュラムの授業内容に含まれていたが、健康状態を的確にアセスメントしクリティカル・シンキングに裏づけされた看護過程の展開能力をより強化するために、この2つの科目を設けた。

2番目の新カリキュラムと旧カリキュラムの大きな違いは、基礎看護技術系の科目には機能形態学の基礎知識が必要なため、解剖学・生理学の基礎的な科目の履修を済ませた後に、半年遅れて基礎看護技術系の科目を開講したことである。しかし基礎看護技術系の科目には実際には解剖・生理学的な知識だけでなく、生命現象を捉える知識も必要とされ、本年度は後期から開講される「基礎看護技術Ⅰ」と「ヘルスアセスメント技術」の科目内容を学生の学習状況を考慮して一部を2年生の前期に移動させるなどの科目内容の調整を行った。その代わりに2年生の前期に開講される「看護過程」の中の看護のアセスメントの視点とクリティカル・シンキングの育成については1年生の後期に組み込んだ。

次年度以降は、新カリキュラムの進行にあわせて、学生の学習状況を見極めながら、開講時期の適切性と科目内容の検討を重ねていく必要がある。

[基礎看護学の教育の特徴]

基礎看護領域では、看護を初めて学ぶ学生が、ひとりの人間として成長していくための芽を育み、自律的に学ぶことを身に付けていくことにより、看護の面白さを見出せることが重要であると考えている。この時期の学生は、大学で学ぶこと、看護職を目指すことにおいて、日々の生活体験を通して自分は何者で、将来何になるのかを試行錯誤を続けている。そんな彼らが日々の学生生活の中で、自信を育み、有能感を身に付け、主体的に学ぶことを学んでいく時期がちょうど基礎看護領域の教員が関わる1年生、2年生の時期に当たる。その意味で、教員は、個々の学生の学習活動をフォローするだけでなく、学生生活全般にわたり目を向け、揺れ動き迷う学生の気持ちを支援し導くことが求められている。

基礎看護学の教育指導においては、学生が自分自身で試み、有能感を育くみ、主体的に学ぶことを促進するためには、教育方法や教授技法の開発など創意工夫をし、その成果をどう評価するかについても試行錯誤しながら取り組んでいる。

以下に基礎看護学の科目毎に、教育活動の取り組みを紹介する。

1. 看護学概論

看護職と看護学の発展の歴史的過程を学び、また看護の対象、人間と環境の相互作用、健康の成り立ち、看護の対象を捉える視点と関わり方の特徴などを学ぶことにより、学生が看護専門職の機能と役割を理解することを目的としている。

2. 基礎看護技術 I、ヘルスアセスメント技術

本年度より、新カリキュラムにより、基礎看護技術 I とヘルスアセスメント技術が開始された。これらの科目では、種々の看護活動に共通する基本的技術、生活援助技術、対象の健康状態をアセスメントするための技術および安全・安楽に診療を受けるための援助技術を教授する一連の科目である。講義では、援助技術の科学的根拠と援助の基盤となる考え方の教授を重視している。また生活援助技術においては、学生自らの日常生活を意識させた上で、他者の生活・生活援助を捉えることができるように構成を工夫した。看護技術の学習において重要となる演習(学内実習)では、以下のような工夫を行っている。

①少人数制による技術指導の工夫

演習では、クラスを2分し、一人の教員が一度に担当する学生数を6~8名にすることで、教員が学生個々の身体の細かい動きや思考を把握しやすくし、それぞれに応じた指導を行うことができるようにしている。さらに、学生2名1組を基本としたグループ編成とし、演習方法を工夫することにより、各学生は毎回、患者役および看護者役を体験することができ、特に患者の体験を通して、看護師として配慮する視点と必要について考え、学ぶ機会とできた。また、単に手順や方法を学ぶのではなく、根拠を元によりよい援助方法を探求するために、学生が意見交換をしながら、主体的に取り組むことができる学習環境作りを目指した。これらによって教員の演習担当時間数は2倍となるが、学生にとっては演習時間内に自らが体験できる機会と、教員からより丁寧な指導を受ける機会を多く持つことができた。

②自己学習を推進するための工夫

学生が自己学習し、それぞれの技術の方法とその根拠を踏まえて実施できることを目的に、事前・事後の課題を提示した。事前学習の内容としては、主に演習や実習で利用できる資料の作成を目指し、ビデオの視聴や文献学習を行わせた。また、演習後にも、技術の確認や自己練習ができるように、夏季休暇を含め、平日の9~19時で実習室を開放した。過密なカリキュラムのなかで授業の空き時間が少なく、利用は必ずしも多くないが、技術試験や臨地実習前には、多くの学生が実習室で練習に励んでいた。

③教授方法の工夫

ヘルスアセスメント技術では、「その人を見る」こと、このときの視点の当て方と何が見ることができているのかを意識化させることを講義・演習内で強調した。特に、「全身所見の観察法」の単元では、当大学事務の方に対象者役としてご協力いただき、実習室へ入室するところから観察し情報を得る演習を実施した。学生たちは、情報と自身の判断との違いを対外の意見交換や教員からの助言を通じて気付くことが出来ていた。また、運動や環境がバイタルサインにどのような変化を与えるのかを実際に体験できるような演習を組んだ。これらにより、学生は様々な視点を持ちながら対象をみることの必要性について理解できていた。

このほか、ナーシング・アンを本年度購入し、演習に活用した。十分な活用にはいたらなかったが、健常者では経験できない、呼吸リズムの異常や不整脈などを疑似体験できていた。これら器具と演習方法を工夫して、より実際の場に近づけるように利用していくことは今後の課題である。

④ [ケア場面実習] (新カリキュラム) [基礎看護実習Ⅱ] (旧カリキュラム)

「ケア場面実習」は学生にとって初めての臨床現場体験である。1年次の2月に、生活者を捉える視点を持って対象者と関わることで、相手を理解し、より良い人間関係を築き、また病院という組織を知り、その中で看護者の役割を理解することを目指して、市内の2病院で5日間の実習を実施した。看護師のシャドウイングを今年度初めて実施し、学生は看護師の仕事内容や患者と看護師の関わりの様子を学ぶことができ有意義な実習であった。

基礎看護実習Ⅱ (旧カリキュラム) は、「基礎看護の方法」をすべて既習している2年次の11月半ばより、実習Ⅰで学んだ人間関係を築く関わりと患者を生活者として捉える視点を基盤として、入院中の対象者が抱える看護上の問題を明らかにする過程 (アセスメント) に重点をおいて指導した。また、個々の対象者に適した日常生活援助を考え実施することも目指して実習した。

いずれの実習においても、看護師としての基本的な態度や能力を養うことに重点におき、学生が学内で学んだ知識・技術・態度を臨床実践と結びつけることで、3・4年次の様々な対象者や領域・場に応じた看護を学習していくことができるように指導した。また、初めて看護者 (に準じる者) としての対象者に関わるため、事故・ヒヤリハット防止対策の強化と危険の意味について考えられるように指導を行っている。このほか、指導上に留意したこととしては、学生は20歳前後という心理社会面の成長発達において揺れ動く時期であることを念頭におき、個別指導を意識的に実施した。

<研究活動>

[教員特別研究推進費による助成研究]

今年度の基礎看護領域では、昨年度に引き続き准教授1名の欠員のまま教育・研究活動を行わざるを得ない状況となり、年間を通じて2名の非常勤任用職員の支援を得ながらも、4名の教員はかなりの負担を抱えながら授業・学内演習と実習の運営を行ってきた。その様な厳しい状況の中で基礎看護領域の教員は以下の研究に取り組んだ。

小寺は、教員特別研究 (ポスト COE) の助成を受け、「看護部門のトップ・マネジャーのコンピテンシー・モデルの設計」に取り組み、昨年度のトップマネジャーへのインタビュー結果と、病院長等の病院管理者への調査結果と文献による検討の結果を合わせ、看護部のトップリーダーの高業績特性の抽出に取り組んだ。(研究代表者：小寺栄子)。

寺内は、「看護師のバーンアウト予防に関する研究-看護師の信念及び看護師が捉える職場風土に関する実態調査-」において、文献検討と質問紙作成に向けた意見交換に取り組んだ。研究代表者の行ったインタビュー結果を元に、今後は質問紙の内容を選定作成していく予定である。(研究代表者：奥原秀盛、研究分担者：白尾久美子、西田公昭、野村千文、池田和恵、繁田佳映、寺内英真)

佐藤は、「看護学生を対象としたフィジカルアセスメント教育における「触診動作学習支援システム」の活用に関する基礎的研究」にて、学習時の基準となるデータ作りに取り組んだ。後述の科研費プロジェクトと連動させて、学習支援のシステムや教材開発を進めている（研究代表者：佐藤智子、研究分担者、鈴木直義、寺内英真）。

酒井は、「地域に根差した防災教育の検討 - 災害時シミュレーションを通し看護学生の防災力を高める -」では、本学学生を対象として地震災害を想定した避難所体験訓練を実施し、災害時におけるシミュレーション教育の内容・方法、ならびに災害時に求められるネットワーク形成について検討した。（研究代表者：金澤寛明他 6 名）そして、理事長特別研究費助成による「地域に根差した防災教育の推進」では、より効果的な学内防災訓練について検討するため、現在看護学部の学生が中心となって組織されている防災ボランティアクラブのメンバーが行っている救急法講習会など地域貢献活動を元に 防災教育の在り方について検討した。（研究代表者：上田真仁 研究分担者：酒井見名子）。

また、酒井は、学長権限分一般研究分にて「感染防御を促進する学生の手洗い習慣を確立させるための基礎的研究」に取り組んでいる。手指衛生のコンプライアンスを高めるために看護学生に一定時間手洗いを実施するためのプログラムを実施・検証を行っている（研究代表者：日吉孝子、研究分担者：金澤寛明、山田善博、山田貴代、酒井見名子）。

[各人・共同研究の取り組み]

基礎看護領域の教員によるその他の取り組みとしては、日本学術振興会からの補助（文部科学省科学研究費補助金）や他の助成金を受けた研究、学内外の研究者らとの共同研究を進めている。以下研究テーマ別に、研究の概要を示す。

[文部科学省科学研究費補助金による研究]

小寺は、平成 20 年度から 3 年間の計画で「変革期の看護部門トップマネジャーに求められる役割とコンピテンシー」（基盤研究 C）に取り組んでいる。本研究の目的は、我国の一般病院の看護部門のトップマネジャーの役割と役割遂行のために必要とされるコンピテンシー（高成果実現行動特性）を明らかにすることを目的とする。今年度は、昨年度の一般病院の看護部門の長へのインタビュー結果と病院長・事務長などの組織管理者への質問紙調査の結果を踏まえ、看護管理者のコンピテンシーや実践規準、看護管理者教育プログラムなどについての国内外の文献の分析や調査により、看護部門のトップマネジャーに求められる役割、管理能力、業績指標について明らかにすることを目的とした。

寺内は、平成 20 年度から 3 年計画で「術後せん妄ケア・アルゴリズムの臨床的有用性に関する実証研究」（若手(B)）に取り組んでいる。本研究は、研究者らにより開発した、術後せん妄ケア・アルゴリズムの臨床での使用における有用性と問題点を明らかにすることを目的としている。本年度は、病院施設における術後せん妄ケアの実態調査のための質問紙調査票の作成と、現在行われている術後せん妄ケアの方法について看護師へのインタビューと実態調査を計画しており、そのケアの根拠について文献検討を実施している。また、来年度以降での、調査に向けたフィールド確保と調整を行っている（研究代表者：寺内英真）。

佐藤は、平成 20 年度から 4 年間の計画の「動作実習教育のための遠隔指導システムの開発—フィジカル・アセスメントスキル訓練への応用—」（基盤研究(B)）に参加して、臨床看護師への現任教育としてのフィジカル・アセスメント研修をサポートするためのシステムおよびプログラムの開発を目指している。今年度は打診の学習支援システム開発、触診に関する学習情報データの基礎分析、e-learning 用のプログラム開発の 3 テーマに取り組み、日本 e-learning 学会秋季学術講演会における口頭発表では最優秀賞を受賞した。（研究代表者：鈴木直義、研究分担者：佐藤智子、他 7 名）。さらに、「フィジカルアセスメント用 PC 教材の開発と活用及び看護技術演習による学習効果の検証」（基盤研究(C)）に今年度加わり、開発中の PC 教材の試用実験を行った（研究代表者：岡本恵里、研究分担者：金澤寛明、竹内登美子、佐藤智子）。

【研究業績】

(原著論文)

- 1) 渋沢良太, 渡邊貴之, **佐藤智子**, 岡本恵里, 細澤あゆみ, 湯瀬裕昭, 松浦博, 青山知靖, 鈴木直義, 客観的な指標に基づく触診型手技の学習支援システムの試作, 日本 e-Learning 学会論文誌, 第 9 号, 64-73, 2009.
- 2) 細澤あゆみ, 渋沢良太, 岡本恵里, **佐藤智子**, 酒井美那, 堀口貴光, 青山知靖, 鈴木直義, 動作実習教育における動画レポート作成・添削システムの設計, 日本 e-Learning 学会論文誌, 第 9 号, 74-83, 2009.

(学会発表)

- 1) **小寺栄子**, 一般病院組織管理者の看護部門トップ・マネジャーの管理行動の認識と期待, 第 13 回日本看護管理学会講演抄録集, 110, 2009 年 8 月.
- 2) **小寺栄子**, 看護トップマネジャーの環境認知と求められる役割—看護管理者へのインタビューを通じて—, 第 47 回日本医療・病院管理学会学術総会演題抄録集, 15, 2009 年 9 月.
- 3) **佐藤智子**, 腹部フィジカルアセスメント技術の授業改善に向けた学生の「学びの手応え」に関する調査, 日本看護学教育学会第 19 回学術集会(北見), 2009 年 9 月.
- 4) 渋沢良太, 葛岡英明, 山下淳, **佐藤智子**, 岡本恵里, 細澤あゆみ, 渡邊貴之, 湯瀬裕昭, 鈴木直義, Test Production of an Asynchronous Distance Learning System for Palpation Training based on a Pressure Distribution Blended into a video - A Support to objectively Assessing the Performances of Clinical Nurses (圧力分布情報の合成提示による触診動作の非同期型学習支援システムの試作-自己の学習の客観視の支援-), ASIAGRAPH2009 (江東区青海), 2009 年 10 月.
- 5) 細澤あゆみ, 渋沢良太, 岡本恵里, **佐藤智子**, 横山航, 山本洗希, 湯瀬裕昭, 青山知靖, 鈴木直義. 学習支援プログラム作成を想定した概念モデルの構築—フィジカルアセスメントスキル型学習への適用, 日本 e-learning 学会 2009 年秋季学術講演会(品川), 2009 年 11 月.
※最優秀賞受賞
- 6) 若杉侑輝, 後藤洋平, 松浦博, 岡本恵里, **佐藤智子**, 渋沢良太, 細澤あゆみ, 横山航, 湯瀬裕昭, 青山知靖, 鈴木直義. 打診の遠隔実習指導環境における音情報の取り扱いに関する基礎的検討, 日本 e-learning 学会 2009 年秋季学術講演会(品川), 2009 年 11 月.

<地域貢献活動>

小寺栄子

静岡県立がんセンターの認定看護師(皮膚・創傷ケア分野)教育課程において「組織管理と看護サービスマネジメント」についての講師を務めた。また全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会の回復期リハビリテーション看護認定コースで「リーダーシップ論」の講師を務めた。

静岡県に対する活動としては、平成 19 年度より静岡県情報公開・個人情報保護審査会の委員を努め、毎月、審議を重ねている。

また平成 19 年に設立された臨床医学看護教育スキルラボ研究会の評議員として学会の創設と学術総会の運営に加わった。

平成 20 年度より日本看護科学学会和文誌編集委員として、「日本看護科学学会誌」の編集に携わった。

寺内英真

静岡大学主催の教員免許更新講習(8月)にてフィジカルアセスメントに関する講義・演習を実施した。また、8月に3回、静岡県教育委員会体育保健課からの要請である平成 21 年度 5 年経

験者研修（スキルアップ研修）および静岡市養護教諭研究会第1支部、10・11支部の研修で、さらに10月に2支部の研修の運営補佐と講師として関わった。

佐藤智子

看護の技としてのフィジカルアセスメントを養護教諭にも学校保健の場で活用してもらえるよう、県内の養護教諭に対する研修「養護教諭に必要なフィジカルアセスメント」を行っている。今年度は、静岡大学主催の教員免許更新講習（8月）に参加したほか、8月に3回、静岡県教育委員会体育保健課からの要請である平成21年度5年経験者研修（スキルアップ研修）および静岡市養護教諭研究会第1支部、10・11支部の研修で、さらに10月に2支部の研修において講師を務めた。

酒井見名子

静岡大学主催の教員免許更新講習（8月）に参加した。

また、看護学部の学生が中心となって活動をしている防災ボランティアクラブの学生とともに地域に出向き、心肺蘇生法・三角巾の使い方・搬送法などを地域住民に実演・指導を行う際の取りまとめを行った。近隣地域からの地域防災訓練での講師依頼数は年々増加しており、本年度は15地区で実施した。地域への認知度も高まり、防災ボランティアクラブが静岡新聞やNHK静岡に取り上げられた際は記事の校正や出演内容の編集に携わった。

(3) 成人・老人看護領域の活動

<教育活動>

成人看護学領域では、ライフサイクルのうえで最も長期間を占める成人期にある人々の特徴を捉え、どのような健康障害であっても、急性期、慢性期あるいは回復期すべてを通して、身体的・心理的・社会的な側面から、総合的に理解するための視点と基本的な知識・技術を身につけることを目指している。また、この成人期に特徴的な健康問題を、やがて訪れる老年期（円熟期）の問題として繋げられるように、授業・演習・実習を展開している。

科目編成は、「対象の理解Ⅰ」、「成人看護の方法Ⅰ」、「成人看護の方法Ⅱ」、「成人・老人看護方法演習」、「成人看護実習Ⅰ」、「成人看護実習Ⅱ」であり、それぞれ以下のような目標を設定している。

- ① 成人期にある人々の健康障害の特徴を踏まえて、身体的・心理的・社会的側面を総合的に理解する視点をもつ。
- ② 健康障害をもつ人々のセルフケア能力を高めるような看護について考える。特に、病いを患う人々の生活史や価値観、生活観を大切にすることを教授する。
- ③ 健康障害をもつ人々と共に生活する家族員のケアについても考える。
- ④ 病いを患う人々に関わる中で、多様な倫理的課題に触れていることに気づく。
- ⑤ 成人期にある人々への医療が、社会的にどのような課題を有しているのか、関心をもてるようにする。
- ⑥ 演習では、成人期から老年期まで、看護を行う上で必要となる技術の根拠、およびその方法を考えながら、実際場面を想定した演習を試みている。

授業の展開方法では、事例検討や各自が新聞やインターネットから収集した情報をグループで検討するなど、学生が関心をもって主体的に学べるよう工夫している。また一部の演習においては、事例を用いたり、静岡県立総合病院、JA静岡厚生連清水厚生病院の看護師の協力を得て、より実践的な演習となるよう工夫している。

老人看護学領域では、老年期にある対象の生活および老化に伴う生理的・心理的・情緒的・社会的特性を理解し、老人看護の基本的な理念と援助、今後の保健・医療・福祉における施策の方向と看護の役割について考えることができることを目標としている。

科目は、「対象の理解Ⅰ」、「老人看護の方法」、「成人・老人看護方法演習」、「老人看護実習」で構成されており、各教科目を通して、個々の老人の価値観を尊重する態度を養うとともに、高齢者に生じやすい健康問題への看護援助、家族への支援等から、その人らしい生活の質 (Quality of Life) の確保と向上に資するような援助技術の修得について教授している。

授業の展開方法では、高齢者擬似体験や臨床の事例を想定した援助技術の実践（褥瘡予防・嚥下リハビリテーション・口腔ケア・高齢者へのアクティビティ援助等）等の演習形式も適宜取り入れ、学生が主体的に学び基礎知識を応用できる力を養えるよう工夫している。また、学生の希望があれば、発展看護実習へとつなげて、老人看護学の専門的課題が深められるような配慮も行っている。

<研究活動>

古川文子

循環器系健康問題に関する実態把握とそれに基づく介入研究のための研究組織を立ち上げ、県立総合病院循環器病センターと共同研究（基礎的研究Ⅰ・Ⅱ、臨床研究Ⅰ・Ⅱ）の具体的展開において、基礎的研究Ⅱの最終段階に入った。本研究は平成19年度からの継続研究であり、20年度、21年度と本学学長権限分からの補助を受け実施してきた。本年度は研究成果の一つとして特許出願した成果物に対してさらなる精度向上のための工夫を行った。また、この結果を受け、人を対象とした研究に着手するための準備も整ったことから（研究計画書の研究倫理委員会での承認、研究に必要な物理的準備完了）、臨床研究への移行前に確認の必要な実験データの収集に入る予定である。

奥原秀盛

科学研究費の助成を受けて、「緩和ケア病棟入院中のがん患者の家族を対象とするサポート・グループに関する研究」[平成20年度～23年度(予定)]（研究代表者：奥原秀盛、学内共同研究者：白尾久美子、池田和恵）と「緩和ケアの実践知に基づく看護援助方法論のモデル構築に関する研究」[平成21年度～24年度(予定)]（研究代表者：日本赤十字看護大学教授・守田実奈子）を行っている。また、厚生科研費の助成を受けて、「がん生存(Cancer survivor)のQOL向上に有効な医療資源の構築研究」(研究代表者：静岡県立静岡がんセンター総長・山口 建)を行っている。

白尾久美子

心理的サポートについて、臨床現場の看護師と共に月に1回、事例検討を行っている。提示される事例は、主になん患者への心理的サポートが主であるが、本年度の傾向として、家族に関わる事例が多くみられた。他大学のメンバーと共に、「新人看護師の職場適応を促進するためのプログラムの開発と導入の検討」に関する研究を継続して実施している。新人看護師のストレスや適応に関する研究の成果をもとに、彼らの職場適応を促進するための介入プログラムを開発し、実施、評価を行った。

野村千文

「高齢者の生きがい支援活動の効果に関する検証」を研究テーマに、医療施設に入院している高齢者を対象に、夜間睡眠に及ぼす効果などについて検討している。また、「介護老人福祉施設におけるケアの向上を目指した組織づくり」ならびに「高齢者アセスメントシートの開発」にも取り組み、A福祉法人の事故防止委員会での活動を通して、職員らと共に利用者の安全な環境とケアの方法について検討している。

池田和恵

奥原たちとがん患者の家族に焦点をあてた研究に取り組んでいる。

井下裕子

「人工股関節置換術を受けた人々の生活構築の特徴」をテーマに研究に取り組んでおり、術後の回復過程に焦点をあてながら支援方法の在り方について検討を行なっている。

繁田佳映

失禁を有する高齢者の方々を対象に、失禁に起因した皮膚障害(IAD: incontinence-associated dermatitis)について予防方法の確立に向けて取り組んでいる。平成 21 年度は、文部科学省科学研究費補助金(スタートアップ)を受け、「IAD(失禁に起因した皮膚障害)に関する客観的リスクアセスメント指標の開発」の研究を進めている。

山田理絵

脳血管障害により失語症の後遺症が残った方を対象に、県下の患者会メンバーに協力を頂き、本学学長権限分からの補助を受け、生活上での困難感の特性記述を目的に、エスノグラフィ法を用いて研究を行っている。

【研究業績】

(原著論文)

- 1) **Shigeta Y.**, Nakagami G., Sanada H., Oba M., Fujikawa J., Konya C., Sugama J., Exploring the relationship between skin property and absorbent pad environment. Journal of Clinical Nursing, 2009; 18(11), 1607-1616.

(学会発表)

- 1) **Furukawa, F.**, **Shikimori, H.**, **Kanazawa, H.**, (2009):Improvement of the morphological fitted mattress for patients with peripheral vasculat disease: A pilot study. 40th Biennial Convention, International Nursing Research Congress Honor Society of Nursing, STTI, Indianapolis.
- 2) 福井里美, 守田美奈子, 吉田みつ子, 樋口佳栄, 齊藤梓, 生山笑, 鈴木治子, **奥原秀盛**, がん患者・家族のための複合的プログラムの運営と評価-「がんサポート・ルーム」の1年間の運用を通して-, 第10回日本赤十字看護学会学術集会(東京), 2009年6月.
- 3) 遠藤公久, 守田美奈子, 吉田みつ子, **奥原秀盛**, 他(4名), 複合的プログラム「がんサポート・ルーム」の意義と運営課題-サポート・グループに焦点をあてて-, 第22回サイコオンコロジー学会総会(広島), 2009年10月.
- 4) **白尾久美子**, 山口桂子, 長田泰子, 新人看護師の職場適応促進介入プログラムの実施と評価(第5報)-介入プログラムの実施と効果-, 第35回日本看護研究学会(横浜市), 2009年8月.
- 5) 須釜淳子, 真田弘美, 井上歩, 仲上豪二郎, **繁田佳映**, 大場美穂, 紺家千津子, 松尾淳子, 田端恵子, 松本典子, 榎亜矢子, 高齢者用前側吸収尿失禁パッドにおける尿吸収状態の評価, 日本創傷・オストミー・失禁研究会(仙台), 2009年5月.
- 6) **山田理絵**, 感覚性失語症患者の語りにみる失語症というずれの対処行動, 第35回日本看護研究学会(横浜市), 2009年8月.

(その他)

- 1) **古川文子**, 循環器疾患患者の生活指導の実際-日常性の維持と確保: 睡眠や休息から活動への移行期における日常生活行動支援- シンポジウム, シンポジスト, 第74回日本循環器学会総会・学術集会, 京都, 2010(3月5日).
- 2) **古川文子**, 近畿地区看護研究学会, 招へい講演通訳, 米国におけるナースプラクティショナーの役割と実際, 奈良, 2009(12月9日).
- 3) 守田美奈子, 遠藤公久, 吉田みつ子, 朝倉隆司, **奥原秀盛**, 他(5名), 地域を拠点とした包括的サポート提供システムの構築と評価に関する研究-, 科学研究費補助金基盤研究 A(平成 17 年度~20 年度)研究成果報告書, 2009.
- 4) 守田美奈子, 吉田みつ子, 遠藤公久, **奥原秀盛**, 他(2名), がん患者・家族のためのサポート・プログラムの運営と評価その 1-サポート・グループの運営を通して-看護実践の科学, 34

(12) , 39-43, 2009.

- 5) **白尾久美子**, 応用力が身につく看護過程 胃がん患者のケア, ナーシングカレッジ, 13(3), 66 - 82, 2009.
- 6) **白尾久美子**, 山口桂子, 若山隆, 新人看護師の職場適応を促進するための介入プログラムの検討, 科学研究費補助金基盤研究 (C) (平成 17 年~20 年) 研究成果報告書
- 7) **野村千文**, 新田静江, 本田理恵, 要介護高齢者の夜間睡眠状態に関する考察, 月刊ナーシング, 29(10), 106-110, 2009.
- 8) **繁田佳映**(翻訳), 宇佐美しおり, 遠藤俊子, 岡田俊, 岡谷恵子, 上鶴重美, 真田弘美, 須釜淳子, 土屋紀子, 筒井真優美, 新田静江, 増野園恵(監訳者), 岡谷恵子(翻訳編集), 看護研究百科, 照林社(東京), 179-181, 2009.

<地域貢献活動>

成人・老人看護領域の教員の小集団あるいは個人の活動は下記の通りである。

古川は、昨年に引き続き、静岡県下の臨床ナースを対象に、毎月1回(第3土曜日 13時~15時)循環器系看護研究会(勉強会)を開催し、研究で明らかにされた根拠(循環器系看護の実践を支える根拠)について学習しつつ、実践への適用を検討している。また、臨床ナース、これから大学院入学を目指すナース、現役の院生等を対象に、毎月1回(第3土曜日 10時~12時)英語論文講読会を開催している。なお、この講読会では、メンバー個々の関心事やレディネスに応じたプログラムを用いて運営している。前者は、3回のみで開催に終わったが、後者においては参加者3~5名で定期開催を行い、内、1名の大学院受験合格(英文講読試験)に貢献できた。

奥原と池田は、静岡県立総合病院の緩和ケア病棟において、週1回(原則として火曜日 14時~15時)当該病棟に入院している患者の家族を対象に「家族同士の語らいの会」を開催している。この会は、家族員の緩和ケア病棟への入院に伴うさまざまな思いを語り合い、共に支え合うことを目的としており、平成15年12月に開始し平成22年2月末で270回を迎えた。疲労し沈痛な表情で参加した方が、穏やかな笑顔に変わることも多く、同じような状況にある者同士が語り合うことの力を実感している。この家族がもつ力を、看護実践のなかにどのように取りこみ活用していくかが、将来的な大きな課題である。

奥原と池田は、平成15年9月より、「身体論勉強会」を月1回(原則として第2土曜日の午前中に)本学にて開催している。この身体論的な視点によって、これまで私たちが見過ごしてしまっていた人と人との豊かな営みである看護実践のあり様やその厚みに触れることとなり、しばしばハッとさせられている。参加者は、大学院生・修了生、学部生・卒業生、本学周辺病院の臨床看護師・産業保健師、静岡大学や他県の大学院生など様々であり、毎回20名前後が集っている。

奥原は、平成21年度臨床看護実習指導者講習会において「看護研究」18時間のうち12時間を担当した。研究プロセスの概要から講義を進め、研究疑問の明確化については受講者参加型の形式で行い、受講生が興味・関心をもって参加できるように工夫している。また奥原と野村は、静岡県看護協会訪問看護師養成講習会におけるグループワークを担当した奥原と白尾は、静岡県立総合病院看護部主催の経験4年目看護師向け研修において、看護研究の指導を行った。

白尾は、平成17年度より、豊橋市民病院の看護研究委員会に対して月1回、研究の支援に当たっている。平成21年静岡県看護協会主催の「看護研究(基礎コース)」において講師を行った。静岡県看護協会による認定看護師教育課程「脳卒中リハビリテーション看護」の入試委員会及び教育委員会となり、入試および認定看護師教育課程の運営に携わった。「脳卒中リハビリテーション看護」では、フィジカルアセスメントについて6時間の講義を担当した。本年度から開始となった「教員免許状更新」の講習会を1日開催した。

野村は、平成13年度より、静岡市「山の上病院」にて年1回開催されている「看護・介護研究発表会」で研究の指導に当たっている。また、静岡県看護協会による認定看護師教育課程「脳卒中リハビリテーション看護」にて講義(4時間)を担当した。

(4) 小児看護領域の活動

<教育活動>

小児看護領域では、子どもの成長発達を理解し、健康障害をもつ子どもとその家族に対する看護について教育を行っている。子どもに対する看護は、小児看護の理念にもとづき、子どもおよび家族の捉え方、小児保健・医療・福祉における施策の動向と小児看護の役割等を理解することを目標としている。

科目構成は、[対象の理解Ⅱ] [小児看護の方法] [小児看護方法演習] [小児看護実習] から成り、健やかな子どもの発育を支援し、健康障害が子どもの成長発達や家族にどのような影響を与えているかを理解し、健康障害から派生する問題を解決するために必要なアセスメントと援助の方法等を習得できるよう教授している。

平成 21 年度は年度を通じて、小児看護教授・講師が不在であったため、非常勤教員が担当する授業もあった。

学内演習では、子どものケアに必要な看護技術（バイタルサインの測定、身体計測、与薬、輸液管理等）の習得に加え、ペーパーペイシエントによる看護過程の展開、少人数グループによるプレパレーションの考案・発表の機会を持った。

後期の小児看護実習では、他領域の教授の支援の下、助教の美濃、斉本の他、非常勤教員が実習を担当し、各グループに教員一名を配置する実習指導体制を維持し、実習を行った。実習担当教員は、学生が子どもに親しみを持って関わり、健康障害を持つ子どもとその家族に対する関心と理解を深められるよう指導を行った。今年度は実習期間中に新型インフルエンザの流行が重なり、学生の実習病棟配置の変更や、受け持ち対象者の変更、ならびに学内演習への切り替え等、学習上の工夫が必要であった。教員は実習目標を達成するために実習施設の実習指導者と連携を図り、学生の学習意欲を支えつつ、小児看護実習の学習効果を下げないように対応した。実習を行った全学生は単位を取得することができた。

<地域貢献活動>

美濃は、社会福祉法人静岡慈恵会春日保育園（静岡市）の子育て支援事業「こあらの会」に保健師として参加し、保育士・栄養士・発達心理士とともに、未就園の親子グループを対象とした育児発達相談を担当している。

(5) 母性看護・助産領域の活動

<教育活動>

母性看護学では、性と生殖の側面から人間の健康課題を査定し、健康の維持増進、疾病予防に向けた健康教育、看護支援の考え方、方法について教授している。担当講義科目は、対象の理解Ⅲ、母性看護の方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、母性看護方法演習、母性看護実習である。授業は、講義科目で基礎知識を学び、演習で思考過程および基礎的な技術の習得を行い、実習でそれらの統合を行うという流れで組み立てている。講義科目では、グループおよび個人による課題学習と、その発表・意見交換で学習内容を深める学生との双方向授業を目指している。演習では、ビデオ学習や臨床の助産師と出産関連のライターを招いた模擬分娩見学、出産体験者の講演など、より具体的に臨床場面がイメージできるよう工夫している。実習は、静岡市内の 3 病院で行っている。昨年までは、外来、新生児室、産褥室、分娩室と配置場所を移動する実習をしていたが、今年度から、看護過程の展開能力をより高めることをめざし、母児一組をペアで受け持ち、看護過程の展開を行う形式に変更した。

助産学では、助産師国家試験受験資格を得るための教育を行う。授業科目は、助産学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、助産学実習である。助産学Ⅰ・Ⅱは助産学選択を希望する三年生、他は四年の助産学選

択学生(今年度は10名)が受講した。助産学Ⅰは、助産学概論や助産業務管理に関連する課題を毎回提示し、課題発表と討論、レポート提出によりすすめ、今年度は14名が受講した。助産学Ⅱは産科学の講義で、助産学Ⅲ・Ⅳは、PBL方式による学習を行った。実習は静岡市内の5病院で行い、妊娠後期からの継続受け持ちケース1例を含め、9名が10例、1名が9例の分娩介助を行った。

卒業研究は、松岡3名、太田5名の学生を受け持ち、ゼミ形式で研究指導を行った。

<研究活動>

松岡恵

周産期継続ケアシステムにおける助産師の業務量試算、助産ケア技術の科学的根拠の検証、地域における育児支援、思春期女性の健康支援に関する研究を継続している。

太田尚子

ペリネイタル・ロス（周産期の喪失）に関する研究を継続して行っている。研究内容は、ペリネイタル・ロスのケアに関する研究、ペリネイタル・ロスのセルフヘルプグループに関する研究、ペリネイタル・ロスの看護教育プログラムの開発と評価である。

勝又里織

人工妊娠中絶術を受けた女性の心理および看護上の問題、看護ケアのあり方に関する研究を継続している。

ウッド小池奈津子

性感感染症や月経周期を中心とした女性のセクシュアルヘルスプロモーションに関する研究に取り組んでいる。

山田貴代

在日外国人の自費診療や医療費の未払いに関する受診状況に関する研究に継続して取り組んでいる。

鈴木 恵

助産技術に関する研究に取り組んでいる

【研究業績】

(原著論文)

- 1) Okamoto M, Matsuoka M, Causal Model Structure Analysis of Emotional Unrest in First Time Mothers Faced with Persistent Infant Crying 6-7Weeks Postpartum, Asian Nursing Research, 2009 ; 3(1) : 1-14.

(著書)

- 1) 太田尚子, 子どもを亡くした親へのケア, 遠藤俊子(編)「助産師基礎教育新テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦と新生児のケア」, 日本看護協会出版会, 293-298, 2009.

(翻訳書)

- 1) Polit, D, F & Beck, C, T :Nursing Research 7th Edition(近藤潤子監訳, 後藤桂子, 新道幸恵, 松岡恵, 高木廣文, 羽山由美子(訳), 看護研究 原理と方法 第2版, 医学書院, 2010.

(学会発表)

- 1) 鈴木静恵, 太田尚子, 松岡恵, 開業助産師が行う分娩第一期の時間の過ごし方に関するケア, 第22回静岡県母性衛生学会(静岡), 2009年9月.
- 2) 太田尚子, 堀内成子, インストラクショナル・デザインを用いたペリネイタル・ロスのケア

に関する教育プログラムの開発（第1報）：助産師のケア上の困難，第23回日本助産学会学術集会(東京)，2009年3月。

- 3) **太田尚子**，堀内成子，ペリネイタル・ロスのケアに関する看護者教育プログラムの効果，ランダム化比較試験，第29回日本看護科学学会学術集会(千葉)，2009年11月。
- 4) **太田尚子**，堀内成子，石井慶子，蛭田明子，鷺尾美代子，ペリネイタル・ロスを経験した両親へのグリーフケアー「天使の保護者ルカの会」5年間の活動一，第15回日本臨床死生学会大会(東京)，2009年12月。
- 5) **太田尚子**，子どもを亡くした親へのグリーフケア，第16回日本SIDS学会学術集会(東京)，2010年2月。(招聘講演)
- 6) **太田尚子**，ペリネイタル・ロス体験者とともに考える退院後のケア，第24回日本助産学会学術集会(つくば)，2010年3月。(ワークショップ)
- 7) **太田尚子**，堀内成子，蛭田明子，石井慶子，堀内祥子，有森直子。ペリネイタル・ロスのケアー子どもとの絆をつくる思い出づくり一，第24回日本助産学会学術集会(つくば)，2010年3月。
- 8) **太田尚子**，堀内成子。ペリネイタル・ロスのケアに関する教育プログラムの開発（第2報）：プログラム開発の実際，第24回日本助産学会学術集会(つくば)，2010年3月。
※優秀ポスター賞受賞
- 9) 小泉仁子，堀田久美，**勝又里織**，飯野伸子，高山奈美，開業助産師の職業アイデンティティ形成に関連する要因-開業助産師へのインタビュー分析から-，第23回日本助産学会学術集会(東京)，2009年3月。
- 10) **山田貴代**，濱井妙子，永田文子。分娩・母体保護法適応で入院した外国人と日本人の入院費支払状況の比較，第22回静岡県母性衛生学会総会(静岡)，2009年9月。

<地域貢献活動>

太田尚子

流産・死産・新生児死亡などの、ペリネイタル・ロスで子どもを亡くしたご両親を対象としたセルフヘルプグループ「天使の保護者ルカの会」の代表を務め、聖路加看護大学看護実践開発研究センター（東京）において、客員研究員の立場で運営している。院生時代の2004年に立ち上げたもので、今年で5年が経過した。5年間の開催回数は66回、延べ参加者数は513名である。今年度の活動内容は、セルフヘルプミーティング7回、手づくりの会2回、カラーセラピー1回であった。また、「聖路加看護大学ペリネイタル・ロス研究会」の代表を務め、研究活動、教育活動、実践活動、広報普及活動を行っている。教育活動では、医療者向けの教育プログラム「ペリネイタル・ロス看護者研修プログラム」を主催し、2日間のワークショップを3回、フォローアッププログラムを4回実施した。広報普及活動では、講演、学会でのブース出展、また、第24回日本助産学会学術集会におけるワークショップ「ペリネイタル・ロス体験者とともに考える退院後のケア」を主催した。さらに、セルフヘルプグループのネットワーク「天使がくれた出会いネットワーク」の活動として、東アジアグリーフケアセミナーでのテーマ会主催と実行委員、WAIS 関東主催プロジェクトへの参画、天使がくれた出会いネットワーク交流会への参加などを行った。

(非常勤講師)

松岡恵

聖母大学大学院 周産期・子育て支援看護学方法論

東京医科歯科大学大学院 リプロダクティブヘルス看護学特論

(6) 精神看護領域の活動

<教育活動>

精神看護領域では個人および集団の精神保健の維持・向上に向けての看護支援について学生自らが主体的に考え、検討できるよう工夫している。精神看護の方法および精神看護方法演習については、講義と体験学習、そして、学生が互いの経験を語り合う中から新たな学びを広げる学習を、適宜組み合わせることで全体の授業を構成している。

静岡市内の精神科病院3施設での見学実習を体験してから講義・演習に入るようにし、また、臨地実習指導者を含む精神科の看護師の方々の協力を得て、演習授業を組み立てている。現場のスタッフの方々の授業への参画は、適度な緊張感とともに学生の学習意欲や問題意識を高める効果をもたらしている。

小グループによるディスカッションを中心とした事例検討 (IBL: inquiry based learning) や、ロールプレイングによる模擬患者とのコミュニケーション演習、レクリエーション・リラクゼーションの演習、グループを生かした支援の演習では、学生グループ毎に精神科に勤務する看護師が参加している。看護師からは、学生の傾向や学習のレディネスの把握に役立つという評価を得る一方、学生からは、臨地実習指導者と実習前から交流があることにより、実習に安心感や信頼感をもって臨むことができるという評価を得ている。

また、学生の授業評価は毎回実施し、その結果をふまえて担当教員3人で授業の振り返りをし、次回に質問や意見に対応し、フィードバックしていった。これについて学生からは概ねよい評価が得られたが、肯定的なフィードバックばかりではなく、細かい授業に対する注文もあり、次年度にむけて教授方法や教材の検討も重ねていく必要があるものと考えている。

発展看護実習、卒業研究では、それぞれが自分の実習テーマ、研究テーマをもち、臨床の協力を得て評価できる取り組みを展開できていた。臨床との連携がとれていることにより、学生は各自のテーマに沿ってそれぞれ学習を展開できていた。また、学生達の学びの成果は、臨床と共有できるように発表会をもうけ、研究成果を現場に還元することも意識的に行っている。

その他に、式守は、1年生の科目である「生涯発達心理学」と全学共通科目の「心の発達と行動」を担当している。また石村は、「看護研究」を担当している。それぞれ、精神看護の前段階の基礎知識として、あるいは卒業研究の前段階として役立つよう配置されている科目である。

<研究活動>

精神看護領域では、以下のような研究に取り組んでいる。

式守は、慢性期精神科棟におけるグループアプローチ、地域における高次脳機能障害の人々とその家族への地域生活支援、および家族看護という3点から研究に取り組んでいる。

石村は、地域生活を維持している精神障害者の地域生活支援のあり方に関する研究に取り組んでいる。その中でも単身生活を維持している統合失調症患者の対人関係の特徴に焦点をあて、統合失調症患者の退院支援や地域生活支援への援助方法を検討している。

河内は、科研費（若手B）の助成を受け「精神科医療における行動制限最小化に向けた看護集団の組織変革に関する研究」として臨床との協働によるアクションリサーチに取り組んでいる。本年度は、フィールドとなった病棟の看護組織文化の構造を明らかにするための参加観察と行動制限に関するデータ収集を行った。次年度は、行動制限最小化チームを組織し、定期的な事例検討を行う予定である。

【研究業績】

(学会発表)

- 1) 河内俊二，宮本真巳．行動制限最小化に向けた看護集団の組織文化の変革－精神科病院でのアクションリサーチを通して，第19回日本精神保健看護学会，神奈川，2009年6月．

(その他)

- 1) 河内俊二, 鈴木啓子 他, 第 98 回再現看護師国家試験問題解説書. ラ・スパ過去問対策 2010, 医学評論社, 2009.
- 2) 河内俊二, キラリ男の KANGO 道一宿命によって導かれた「看護」への道, 精神科看護, 精神看護出版, 36 (12) 69-71, 2009.

<地域貢献活動>

精神看護事例検討会・講演会などの開催

学部の基礎教育および研究にとって臨床との連携は重要と考え、相互協力関係の強化に力を注いでいる。先に述べたように教育活動に臨床から支援を受ける一方で、われわれも臨床との交流および相互研鑽の場を作っている。特に、静岡市を中心とする静岡中部地区においては、日ごろの看護実践を丁寧に振り返り、相互に批判的に検討できる継続的な学習の場を確保することが重要と考え、精神看護事例検討会を下記のように8回（毎月3 土曜日）開催した。

表 6-1-1 精神看護事例検討会の開催

回数	月日	テーマ	会場
116 回	4 月 18 日	「他患への暴力行為を繰り返す患者様への関わりを考える」	溝口病院
117 回	5 月 16 日	「摂食障害で入退院を繰り返している患者と、その家族との関わりを考える」	榛原総合病院
118 回	6 月 13 日	「“もう限界だ” と訴え続けている患者の看護について」	藤枝駿府病院
119 回	7 月 18 日	「依存傾向の強い患者の看護-慢性期病棟での退院支援活動を通して」	こころの医療センター
120 回	11 月 21 日	「なにもできない」「なにもわからない」「困っちゃう…困っちゃう」と繰り返し訴え続ける患者への関わりについて	焼津病院
121 回	1 月 23 日	「保護室から出たくないという患者への対応-長期保護室使用からフロア移行へむけて-」	藤枝駿府病院
122 回	2 月 20 日	「多飲水による精神・身体状態に変化が現れる患者の看護について考える」	溝口病院
123 回	3 月 20 日	静岡県立大学看護学部 卒業研究発表会	静岡県立大学 看護学部棟

また、今年度は3つの講演会を開催し、学生、院生と地域の精神看護者などに公開した。①2009年9月30日(水) 15:00-17:00 東京医科歯科大学大学院教授 宮本真巳先生「精神看護の今後の展開ー司法精神看護の経験からー」
 ②2010年2月2日(火) 13:30-16:30 赤城高原ホスピタルソーシャルワーカー 樋田洋子先生「アクションへのアプローチー臨床経験で培われたものー」
 ③2010年2月12日(金) 15:00-16:30 佐久大学大学教授 小西恵美子先生「看護における倫理を考える」

臨床における看護研究、研修などの協力支援

下記のように実習施設および関係施設から依頼された、職員の教育研修および看護研究指導にかかわっている。

表6-1-2 研修および研究支援

施設部署名	時期	協力支援内容
財団法人復康会	平成 21 年 2 月 11 日	第 13 回 復康会研究発表会における講評
溝口病院看護部	平成 21 年 4 月 2 日	研修（新任者）への協力 「精神科看護の基礎知識」 「精神科医療の動向と課題」
静岡てんかん・神経医療センター 看護部	平成 21 年 7 月 2 日 平成 21 年 9 月 3 日 平成 22 年 3 月 2 日	9 つの病棟の研究課題への計画書作成への支援 9 つの病棟の研究の進捗状況に応じた支援 看護研究発表会における講評

精神看護領域としては今後も静岡県の精神科医療福祉保健の各機関との連携を強化し、現場から学び、現場に学びを返す教育・研究に取り組むたいと考えている。

行政機関・職能団体への協力

式守は、静岡市精神保健福祉審議会に委員として参加している。また、日本集団精神療法学会理事、日本精神保健看護学会評議員の役割を果たしている。

河内は、日本精神科看護技術協会静岡県支部役員として、ホームページ管理への協力を行っている。

(7) 地域看護領域の活動

<教育活動>

地域看護領域では、地域で生活する人々のQOL向上のために重要な手段の一つである健康維持・増進及び健康問題解決に必要な看護活動を柱とした教育を行っている。近年の急激な社会経済の変化は、地域社会の機能や人々の生活スタイルにも影響を与え、QOL向上のためのニーズも多様化している。このため、地域特性、健康状態、生活行動、保健サービスなどの情報収集、分析、課題の明確化、保健計画策定までの一連のプロセスから個人・家族・小集団・担当地区に対する支援の方法が習得できることを目指して、講義、演習及び地域における実習を通して教授している。

講義は「その時歴史は動いた」「沖縄の公衆衛生看護師」のビデオを視聴させミニセッションを行うなどの教授法を取り入れているほか、ロールプレイや現場の専門職を招聘して講義してもらうなど多様な学習方法を取り入れて学生の意欲を高める工夫をしている。

地域看護実習は3年生1週間、4年生2週間の実習をしているが今年度は3年生1週間の実習効果をあげる工夫をした。一つは実習前学習において、実習施設の沿革、組織、活動方針・計画、活動内容、参加する事業の法的根拠、目的、実施内容等を把握させたこと、もう一つは3年生実習直前にコーケンベイビーを使用して新生児訪問演習を行い、児の観察、計測、訪問かばんの使い方などを実施したこと、3つめは各実習施設に教員（非常勤含む）を1人配置したことである。このことにより、学生は疑問を持ちながら主体的に実習でき、教員はその場で学生の学びを深める教育的配慮ができた。

<研究活動>

領域全体では、静岡市の新人保健師を対象に住民ニーズに対応した活動を展開する実践能力を高めることを目的に研修会を年4回開催し、新人保健師の研修のあり方について検討を行った。その結果、住民ニーズを把握するための情報収集、要因や要因間の関連性を分析する能力に課題があり、地区診断する方法論の知識技術を強化することや職場での相談体制整備について検討する必要があることが明らかになった。今後は静岡市と協議し研修会のあり方について検討する予定である。

三輪眞知子は平成 19 年度に「子ども虐待予防研究プロジェクト」を他大学メンバーと共に立ち上げた。平成 21 年度は「保健師活動における乳幼児の虐待発生予防のための方策に関する研究」について、事例検討会及び参加保健師へのインタビューについて分析し、報告書を作成した。その成果は富士市保健福祉センター母子担当保健師研修会にて還元したところであるが今後は県内外の保健師卒後教育として実践評価する予定である。

科学研究費補助金(基盤研究 C)の受け、「子ども虐待を未然に防ぐ予防的家庭訪問プログラムの開発」に関する研究を行っている。0~4 か月乳幼児家庭訪問に介入する縦断的研究を RCT 法で行い、子ども虐待を未然に防ぐ予防的家庭訪問プログラム開発を試みている。

厚生労働科学研究費補助金において「地震災害時における難病患者に対するボランティア支援に関する検討」、「地震発生時における高齢者のニーズとボランティア」を分担研究した。調査地区である A 地区社会福祉協議会に研究結果を報告したところ地区防災計画に反映されることとなった。

長谷川喜代美は、静岡市をフィールドとして高齢者が住み慣れた地域で生活を継続するための行政保健師の役割に関する研究を実施するための計画および調整に取り組んでいる。

上田眞仁は、平成 21 年度は地域に根ざした防災教育の検討を理事長研究費プロジェクトとして、看護学部教員、並びに看護学部生の被災者シミュレーションプログラムを企画し、実施した。

【研究業績】

(原著)

- 1) 山田和子, 前馬理恵, 三輪眞知子, 金子仁子, 保健師の児童虐待の認識. 和歌山県立医科大学保健看護学部紀要. 5 (1), 査読有, 1-8, 2009.

(学会発表)

- 1) 鈴木ふみえ, 三輪眞知子, 生活習慣病予防における保健師の効果的な保健指導の実践知, 第 12 回日本地域看護学会(千葉市), 2009 年 8 月.
- 2) Miwa, M., Akiko EGUTI, Masako KANEKO, Satomi TAMAMIZU. Actual situation of the child abuse prevention in the maternal and child health care activities in Japan. The 4th international conference on community health nursing research 16-20 August 2009 Adelaide South Australia.
- 3) 三輪眞知子, 今福恵子, 尾島俊之, 上田眞仁 他, 地震災害を想定した時の難病患者の思い, 第 68 回日本公衆衛生学会(奈良市), 2009 年 10 月.
- 4) 玉水里美, 江口晶子, 三輪眞知子, 岩清水伴美, 金子仁子, 乳幼児虐待予防のための保健師と研究者との共同事例検討会, 第 68 回日本公衆衛生学会(奈良市), 2009 年 10 月.
- 5) 上田眞仁, 三輪眞知子, 奥野ひろみ, 新任保健師地区アセスメント研修会の検討, 第 68 回日本公衆衛生学会(奈良市), 2009 年 10 月.
- 6) 長谷川喜代美, 介護保険制度で対応困難な在宅療養者への支援における行政保健師の役割, 第 12 回地域看護学会(千葉市), 2009 年 8 月.
- 7) 大澤真奈美, 餘目桂子, 富樫絵美, 鈴木美雪, 塩ノ谷朱美, 飯田苗恵, 原美弥子, 齋藤基, 榎悦子, 長谷川喜代美, 地域健康看護学における山間部観察実習の成果—看護の対象理解の視野を拓げる学習としての意味—, 日本ルーラルナーシング学会第 4 階学術集会(前橋市), 2009 年 8 月.

(報告書)

- 1) 尾島俊之, 三輪眞知子, 他(5 名), 地域における健康危機管理におけるボランティア等による支援体制に関する研究, 平成 20 年度厚生科学研究費補助金研究報告書, 2009 年 3 月.

<地域貢献活動>

三輪眞知子

静岡市児童虐待死亡事例検証委員会委員として、児童虐待死亡事例の検証を行い、児童虐待死亡事例検証部会報告書を作成している。また、NPO 法人ホームスタートジャパンの推進委員に就任し、活動に対する助言を行うとともに、地域保健福祉活動におけるホームスタートの意味付け

を報告書に掲載した。さらに、推進委員として日本子ども虐待防止学会第15回学術集会埼玉大会、「子育て当事者」による家庭訪問型子育て支援の分科会においてコメンテーターを務めた。

千葉大学において看護質的統合法（KJ法）研究会が発足したことから、静岡県立大学においてもKJ法学習会を5月に発足させた。学習会は5月から月1回のペースで県立大学を会場に開催し、短期大学部教員、静岡市保健師、看護学部地域看護教員など7～8名の参加者で行っている。学習内容は研究で収集したインタビュー事例についてKJ法を用いて分析しているが十分な分析ができないため、平成22年度は研究会顧問である山浦晴男先生を講師にKJ法初心者研修会を開催する予定である。

上田真仁

NPO法人静岡難病ケア市民ネットワークに属し、ケアシステムを構築する活動と交流を行った。また、静岡市ほのぼの会（精神障害者サポート団体）に属し、ボランティア相談員として夕食会やイベントに参加している。静岡県立大学「防災ボランティアクラブ」の顧問として学生教育にあたりとともに毎年開催される「地域防災の日」において、一般住民を対象とする救急蘇生法や応急手当、AEDの使用法などの講義を行った。

(8) 看護技術（研究科）領域の活動

<教育活動>

看護技術学領域では、高度医療・高齢社会の伸展に伴い、増大する国民のケアニーズに対応するために **nursing biomechanics** の概念に基づく看護技術の開発と普及教育に取り組んでいる。院生は自己の看護実践領域あるいは教育実践領域での経験の中から研究課題を発見し、ゼミ活動、応用実習活動を通して活発な意見交換を行い教育・研究活動を展開している。

担当科目は、「研究法Ⅰ」、「研究法Ⅱ」、「看護理論」、「看護と医事法」、「看護技術学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「看護技術学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「看護技術学応用実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「看護技術学特別研究」を担当している。

具体的な実践教育活動としては、2009年7月「遷延性意識障害患者・家族の会」会員を対象にした在宅療養生活を良好に維持・継続するための生活支援介護教室の開催に携わり、家族の介護に関わる思いを聞き、新たに開発された介護支援技術を家族に指導・教育する機会を得た。さらには、秋田・静岡・栃木・沖縄の在宅患者宅を訪問し、個別の在宅生活支援における家族の介護負担を軽減する技術指導を個別のケアマニュアルを作成して、患者の変化過程から教育・研究の成果を評価、確認した。

<研究活動>

看護技術学領域では、遷延性意識障害の看護に関する研究、**nursing biomechanics** に基づく生活支援技術の開発と評価、看護技術の診療報酬化に関する研究、に取り組んでいる。

【研究業績】

(原著論文)

- 1) **紙屋克子**, 落合幸子, 護学実習での学び尺度の開発と信頼性・妥当性の検討, イマイテイパリダ, 日本脳神経看護研究学会誌, 75-187, 2008.
- 2) **紙屋克子**, モデルとの出会いが看護学実習での学び内容に及ぼす影響, イマイテイパリダ, 落合幸子, 日本脳神経看護研究学会誌, 65-173, 2008.
- 3) 日高紀久江, **紙屋克子**, 松田陽子, 延性意識障害者における在宅介護を可能にする要因の検討, 療社会福祉研究, 6巻, 111-120, 2008.

- 4) 紙屋克子, 高紀久江, 松田陽子, 原川静子, 遷延性意識障害者に関する実態調査, 厚生労働科学研究費補助金 (障害保険福祉総合研究事業), 2009.

(著書)

- 1) ナーシングバイオメカニクスに基づく自立のための生活支援技術 (第3版), ナーシングサイエンスアカデミー, 2010.
- 2) 佐々木英忠, 紙屋克子, 高野喜久雄, 金谷節子, 誤嚥性肺炎を予防する口腔ケア・摂食機能向上により患者のQOLを高める (上巻), オーラルケア, 2008.
- 3) 在宅療養をささえるすべての人へーわが家がいちばんー, 執筆協力, 健康と良い友だち社, 2009.

(学会発表)

林裕子, 紙屋克子, 日高紀久江, 低酸素脳症による意識障害児に対する継続的介入の効果.第6回日本健康行動科学会 (大阪), 2009.

<地域貢献活動>

看護技術学領域では、大学院における研究成果を看護教育ならびに地域の臨床実践教育、臨床看護活動の質の向上に反映させるよう努力している。また、専門領域の第一線で活動する実践者、研究者を本学に招聘し特別講演会を開催し地域・臨床との交流にも努めている。

高大連携 常葉橘高校、愛媛県立北条高校

高等看護学校講演会 静岡県立中部看護専門学校、静岡県立東部看護専門学校

家族介護支援教室 静岡県 2009年7月

施設講演会

こども病院研修会

富士広域地域リハビリステーション広域支援センター

静岡県看護協会認定看護師教育課程講師

沼津第2中学校の総合学習「コミュニケーション」の授業

2) 研究助成金取得状況

(1) 学内特別研究費

① 教員特別研究費

研究代表者	研究テーマ
木村 正人	ラット慢性腎不全の進行における腎内レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系 (RAS) の役割—血中および腎内 RAS の比較—
松田 正巳	看護学部の国際交流の推進に関する研究
日吉 孝子	感染制御を促進する学生の手洗い習慣を確立させるための基礎的研究
濱井 妙子	在住ブラジル人のニーズにあわせた医療支援方法のモデル化への試み
小寺 栄子	看護部門のトップマネジャーのコンピテンシー・モデルの設計
佐藤 智子	看護学生を対象としたフィジカルアセスメントと教育における「触診動作学習支援システム」の活用に関する基礎的研究
古川 文子	軸回転型積層を用いた下肢形態適合型マットの積層特性の分析
井下 裕子	人工股関節置換術患者の術後回復過程にかんする研究
繁田 佳映	おむつ(パッド)と皮膚障害との関係—パッドの性能からの検討—
山田 理絵	地域で生活している失語症者の語りにみる体験—失語症をもって自分らしく生きるために必要なサポートに焦点を当てて—

② 教員特別研究 (学部長権限分、学長権限分) 配分状況の推移

区分	平成 19 年度	区分	平成 20 年	平成 21 年
学部長権限分	6 件 6,890 千円	学長権限分	16 件 9,023 千円	
学長権限分	9 件 4,671 千円			

※平成 20 年度より、学部長権限分と学長権限分の区別はなくなった。

(2) 学外研究費

① 文部科学研究費補助金

年度 (研究期間)	種類	研究テーマ	研究 代表者	研究 分担者	金額 (単位：千 円)
平成 19 ～21 年度 (3 年間)	萌芽 研究	ナノテクノロジーの健康環境 影響に関する保健政策的研究	<u>松田正己</u>	なし	H19:1,200 H20:1,000 H21:1,000
平成 18 ～21 年度 (4 年間)	基盤 研究 (B)	情報プライバシーの視点から の患者情報の収集と共有のあ り方	太田勝正 (名古屋大 学)	<u>松田正己</u> 他	H19: 300 H20: 300 H21: 100
平成 21～23 年度 (3 年間)	基盤 研究 (C)	マインド・コントロール的影響と消費者 契約および集団参加の検討	<u>西田公昭</u>	渡辺浪二 黒田文月	H21: 1,300 H22: 1,000 H23: 1,000
平成 20～22 年度 (3 年間)	基盤 研究 (C)	家族が用いる認知賞早期発見 のための展覧的記憶評価ツ ールの開発	山田紀代美	<u>西田公昭</u>	H21: 165
平成 21 年度 (1 年間)	基盤 研究 (C)	乳幼児期の細菌刺激および化 学物質曝露による成長後の Th1/Th2 バランスへの影響	山元 昭二	藤巻秀和 <u>日吉孝子</u>	H21: 187
平成 21～23 年度 (3 年間)	基盤 研究 (C)	外国人患者と医療者間におけ るコミュニケーション・ギャ ップの実証的研究	<u>濱井妙子</u>	<u>永田文子</u> <u>山田貴代</u>	2,410
平成 20 ～22 年度 (3 年間)	基盤 研究 (C)	変革期の看護部門トップマネ ジャーに求められる役割とコ ンピテンシー	<u>小寺栄子</u>	なし	H20: 1,950 H21: 1,100 H22: 900
平成 20 ～22 年度 (3 年間)	若手 研究 (B)	術後せん妄ケア・アルゴリズム の臨床的有用性に関する実 証研究	<u>寺内英真</u>	なし	H20: 700 H21: 600 H22: 700
平成 20 ～23 年度 (4 年間)	基盤 研究 (B)	動作実習教育のための遠隔指 導システムの開発—フィジカ ル・アセスメントスキル訓練 への応用—	鈴木直義	<u>佐藤智子</u> 他 7 名	H20:12,000 H21: 2,400 H22: 400 H23: 500
平成 20 ～22 年度 (3 年間)	基盤 研究 (C)	緩和ケア病棟入院中のがん患 者の家族を対象とするサポ ートグループに関する研究	<u>奥原秀盛</u>	<u>白尾久美子</u> <u>池田和恵</u> 他 4 名	H20: 1,200 H21: 1,000 H22: 900
平成 21 ～24 年度 (4 年間)	基盤 研究 (B)	緩和ケアの実践知に基づく看 護援助方法論のモデル構築に 関する研究	守田美奈子 (日本赤十 字看護大 学)	<u>奥原秀盛</u> 他 1 名	H21: 3,500 H22: 3,300 H23: 2,600 H24: 1,700
平成 21 ～22 年度	スター トアッ	IAD (失禁に起因した皮膚障 害) に関する客観的リスクア	<u>繁田佳映</u>	なし	H21: 1,365 H22: 770

年度 (研究期間)	種類	研究テーマ	研究 代表者	研究 分担者	金額 (単位：千 円)
(2年間)	プ	セサメント指標の開発			
平成 19 ～21 年度 (3年間)	基盤 研究 (C)	新生児・乳児の泣きへの対応 を含めた育児支援プログラムの 作成	岡本美和子	松岡恵 他 2 名	
平成 21 ～22 年度 (3年間)	若手 研究 (B)	人工妊娠中絶術を受ける女性 の看護ケアに対するニーズの 検討	勝又里織	——	2,430
平成 21 ～23 年度 (3年間)	若手 研究 (B)	精神科医療における行動制限 最小化に向けた看護集団の組 織変革に関する研究	河内俊二		H21: 400 H22: 400 H23: 200
平成 18 ～21 年度 (4年間)	基盤 研究 (C)	子ども虐待を未然に 防ぐ予防的家庭訪問 プログラムの開発	三輪真知子	金子仁子 玉水里美	H18: 1,200 H19: 910 H20: 1,300 H21: 720
平成 20 ～22 年度	基盤 研究 (C)	二次医療圏における地域完結 型ケア、回復期病院が中継す る生活の場への療養行程モデ ル	飯田苗恵	長谷川喜代 美	H21: 100

②厚生労働省科学研究費補助金

年度 (研究期間)	研究分野ま たは事業名	研究テーマ	研究 代表者	研究 分担者 (所属・役 職)	金額 (単位：千 円)
平成 19 ～21 年度 (3年間)	がん臨床研 究事業	WEB 版がんよろず相談 システムの構築と活用 に関する研究	山口建 (静 岡県立しず おかがんセ ンター)	奥原秀盛 他 53 名	H19:27,600 H20:30,000 H21:21,000
平成 19 ～21 年度 (3年間)	地域健康危 機管理研究 事業	地域における健康機器 管理におけるボランテ ィア等による支援体制 に関する研究	尾島俊之 (浜松医科 大学教授)	三輪真知子 他 33 名	H19:5,000 H20:5,000 H21:5,000
平成 21 年	障害者対策 研究事業	在宅遷延性意識障害者 の QOL 向上を目的とし た支援の在り方に関する 研究	日高紀久江	紙屋克子 (看護学研 究科教授)	H21:1,000

③その他の研究助成金取得状況

年度 (研究期間)	申請先	研究テーマ	研究 代表者	共同 研究者	金額 (単位：千 円)
平成 21 年度	浜松北病 院	腎疾患の成因と治療法に 関する教育・研究	<u>木村正人</u>	なし	H21: 1,200
平成 21 年度 (1 年間)	興津螺旋 株式会社	事業継承者が社員モラール に及ぼす時系列的研究	<u>西田公昭</u>	山浦一保	H21: 200
平成 21 年度	静岡県立 大学 教員特別 研究	軸回転型積層による下肢 形態適合型マットにおけ る積層特性の分析	<u>古川文子</u>	池永秀雄 式守晴子 繫田佳映	H21: 630
平成 21 年度	看護系学 会等保険 連合	意識障害者ならびに重度 障害者における QOL 向上 と生活の再構築	<u>紙屋克子</u>	日高紀久 江、林裕子	H21:1,000
平成 21 年度	国立成育医 療センター	病院小児科における経営 と医療の質ならびに医療 収支に影響する諸因子の 検討	小山秀夫 (静岡県 立大学・経 営情報学 部)	森勇治(静 岡県立大 学・経営情 報学部)、 <u>山 田貴代</u>	H21: 600

3) 学会等の開催状況

開催時期	学会名	大会名	開催場所	役割
平成 21 年 6 月	実行委員会	第 36 回比較思想学会研究大会	県立大学	実行委員長 <u>松田正己</u>
平成 22 年 3 月	一般社団法人 日本看護研究学会	第 14 回一般社団法人日本看護 研究学会東海地方会学術集会	県立大学	プランナー： 白尾久美子， 奥原秀盛， 野村千文， 池田和恵， 井下裕子， 繫田佳映

4) 国内共同研究の状況

氏名	年度 (研究期間)	研究テーマ	共同研究者(所属)	役割
松田正己	平成 20 ～21 年度 (2 年間)	「人類生存に向けたナノテクノロジーの可能性と倫理」研究	大林雅之 (生存科学研究所)	公衆衛生学、保健学
勝又里織	平成 21 年度 (1 年間)	継続的思春期性教育プログラム開発のための基礎調査	代)西岡笑子(順天度大学)	分析の妥当性の検討 文献検討

5) 海外共同研究の状況

氏名	年度 (研究期間)	研究テーマ	共同研究者, 研究協力者 (所属) または研究協力 機関	フィールド 国
松田正己	平成 19 ～21 年度 (3 年間)	日本と英国、EU のナノテクと社会の研究	ジェフリー・ハト (セントメリー大学)	日本、 英国

6) 海外研修の状況

研修者の職・ 氏名	事業の名称または目的	研修期間(日 数)	研修先
教授 松田正己	看護学部の国際交流および国際協力に関する研究	H22. 2. 16 ～H22. 2. 23 (7 日間)	タイ国
教授 松田正己	国際看護倫理学会	H21. 9. 7 ～H21. 9. 14 (8 日間)	英国
教授 松田正己	HCI 国際学会	H21. 7. 19 ～H21. 7. 26 (8 日間)	米国
准教授 西田公昭	国際カルト学会ジュネーブ大会	H21. 7. 26 ～H20. 7. 1 (7 日間)	スイス
教授 古川文子	40thBiennial Convention, International Nursing Research, Honor Society of Nursing, STTI, 発表	H21. 10. 31 ～H21. 11. 4 (5 日間)	米国

7. 学部・研究科としての社会貢献

1) 公開講座等の開催状況

講義は地域への開放と共に学ぶ機会の提供を目的とし、公開可能な大学院特別講義は公開セミナーとして広報活動を行うこととした。開催時期、テーマ、講師、参加者数は、次表(表 7-1-1)の通りである。今年度は、10月14日に特別講義のチラシを関係機関に発送したが、全体的に参加者数が少ないため、今後は大学院特別講義の開催担当者へのチラシ作成依頼及び関係機関への送付を早期に行えるよう方策を検討する必要がある。

表 7-1-1 平成 21 年度公開セミナー開催状況

	開催日・時間	テーマ	講師	参加人数
1	H21.9/30(水) 15:00~17:00	精神看護の今後の展開—司法精神看護の経験から	東京医科歯科大学大学院教授 宮本真巳	34
2	H21.10/6(火) 13:00~15:00	臨床で行う家族支援—今、臨床で求められている家族支援と今後の課題	近畿大学医学部附属病院 家族支援専門看護師 藤野 崇	97
3	H21.10/15(木) 13:00-14:30	国際保健の理想と現実	前・国立看護大学校教授 熱田 泉	66
4	H21.11/13(金) 18:00-19:30	がん患者と家族のサポート—複合的プログラム「がんサポートルーム」の運営を通して	日本赤十字看護大学教授 守田美奈子	34
5	H22.2/2(火) 13:30-15:30	アディクションへのアプローチ—臨床経験で培われたもの—	赤城高原ホスピタル ソーシャルワーカー 樋田洋子	10
6	H22.2/8(月) 14:00-16:00	認知症の人と家族のニーズから学ぶ支援のあり方	認知症の人と家族の会 静岡県支部副代表 八木 敬	10
7	H22.2/12(金) 15:00-16:30	看護における倫理を考える	佐久大学看護学部教授 小西恵美子	35
8	H22.2/12(金) 17:00-19:00	摂食・嚥下障害のキユアとケア—臨床の口腔生理学に基づいて—	大阪大学大学院歯学研究科准教授 館村 卓	67
9	H22.2/19(金) 16:30-18:30	いきいき人生支援—新しい 4つの理念—	首都大学東京都市環境学部大学院教授 星 且二	25
10	H22.2/22(月) 13:00-14:30	リハビリテーション医療の動向とリハビリテーション看護	静岡県看護協会教育研修部 認定看護師教育課程主任教員 石鍋圭子	11
合 計				389名

2) 学会・職能団体等の役員、評議委員、委員会活動

氏名	学会・職能団体	役員
木村 正人	日本腎臓学会	学術評議員
西田 公昭	日本グループ・ダイナミックス学会	常任理事
	日本グループ・ダイナミックス学会	実験社会心理学研究編集委員
	日本脱カルト協会	常任理事・研究部会長
	小諸いずみ会	理事
	日本自動車連盟静岡支部	交通安全実行委員会常任委員
	静岡朝日テレビ	放送番組審議会委員
小寺 栄子	日本看護科学学会	和文誌編集委員会委員 専任査読者
	臨床医学看護教育スキルラボ研究会	評議員
	日本災害看護学会	専任査読委員
	日本看護管理学会	学会企画委員
古川 文子	Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing	学会査読委員
	日本慢性看護学学会	評議員、査読委員
奥原 秀盛	日本赤十字看護学会	査読委員
	第24回日本がん看護学会学術集会	企画委員
	静岡県立静岡がんセンター	認定看護師教育課程教員会委員
白尾久美子	日本看護研究学会	評議委員・査読委員
	日本看護医療学会	評議委員
	静岡県看護協会	認定看護師教育課程「脳卒中リハビリテーション看護」入試委員会委員・教員会委員
野村 千文	社会福祉法人駿府葵会特別養護老人ホーム「久能の里」	第三者委員会委員
	静岡県看護協会	認定看護師教育課程「脳卒中リハビリテーション看護」講師
	日本看護医療学会	査読委員

氏名	学会・職能団体	役員
松岡 恵	日本助産学会	理事
	日本看護科学学会	代議員
	日本女性心身医学会	評議員
	日本思春期学会	理事
	静岡県母性衛生学会	理事
	日本母性衛生学会	評議員
太田 尚子	聖路加看護大学看護実践開発研究センター「天使の保護者ルカの会」	代表
	聖路加看護大学ペリネイタル・ロス研究会	代表
	東アジアグリーンケアセミナー	実行委員
河内 俊二	日本精神科看護技術協会静岡県支部	ホームページ管理委員
三輪眞知子	日本公衆衛生学会	評議員
	静岡県保健師会	参与
紙屋克子	日本看護研究学会	常任理事
	日本看護管理学会	理事
	日本看護技術学会	理事
	日本脳神経看護研究学会	副理事長
	日本看護科学学会	評議員
	日本生命倫理学会	評議員
	茨城県水戸地方裁判所委員会	委員
	社会保障審議会	委員
	愛知県看護協会認定看護師教育課程「脳卒中リハビリテーション看護」	教育委員

3) 国・地方自治体における活動

氏名	公的機関名	活動内容
木村 正人	静岡県立こども病院	治験審査委員
	静岡総合研究機構	静岡健康・長寿学術フォーラム組織委員会委員
西田 公昭	静岡市	社会教育委員
小寺 栄子	静岡県	静岡県情報公開・個人情報保護審査会委員
奥原 秀盛	静岡県立総合病院	臨床研究倫理委員
式守 晴子	静岡市	静岡市精神医療審議会委員
三輪眞知子	静岡県	静岡県社会福祉審議会児童福祉専門分科会児童虐待検証部会委員
	静岡市	静岡市児童虐待重大事例等検証委員会委員
	沼津市	沼津市開発審査会委員
長谷川喜代美	静岡市	静岡市保健所運営協議会委員
紙屋克子	厚生労働省	社会保障審議会委員として医療費ならびに診療報酬に関する検討
	水戸地方裁判所	地方裁判所委員として裁判所のあり方に関する検討

4) 高大連携活動

今年度は静岡県内の16校からの要望に対応した。ほとんどの高校が進路指導の一貫として行われており、大学での講義の様子を知るために看護学や医学領域の基礎的な知識を教授する講義への要請であった。出張講義では、高校生に対して大学での講義・演習や看護学部のイメージが持てるように、また看護学への興味・関心がわくような講義を心がけた。高校によっては、講義後に生徒にアンケートを行い、その結果を講師にフィードバックしている高校もあった。看護職に対する興味関心が高い今日において、看護を学ぶことの意味や重要性を高校生に伝え、看護学部の存在をアピールする大切な機会として今後も積極的に取り組んでゆく必要がある。概要は以下(表7-4-1)のとおりである。

表 7-4-1 高大連携による講師派遣

	学校名	派遣教員	講義のテーマ	開催日	時間帯	学年	参加人数
1	常葉学園橘高等学校	紙屋克子(教授)	看護最前線	6/8(月)	12:30~14:00	1,2,3	15
2	御殿場南高校	寺内英真(講師)	看護とコミュニケーション	7/3(金)	13:30~15:00	2,3	50
3	清水西高校	白尾久美子(准教授)	看護の場におけるコミュニケーション	7/9(木)	13:30~15:00	2	40
4	富士高校	野村千文(准教授)	看護学入門-高齢者の生活を支える看護からの探究-	7/17(金)	15:45~16:45	1,2	16
5	川根高校	式守晴子(教授)	精神看護学入門	8/7(金)	10:30~12:00	1,2	12
6	沼津西高校	奥原秀盛(准教授)	その人らしいを死を支えるケア	9/3(木)	15:15~16:00	1,2,3	40
7	星稜高校	池田和恵(助教) 井下裕子(助教)	これからの看護職の役割と機能	9/9(水)	13:30~15:00	2	15
8	静岡雙葉高校	長谷川喜代美(准教授)	生活の営みの中で健康を守る -生活習慣病予防について-	9/15(火)	14:15~15:35	1	90
9	三島南高校	古川文子(教授)	身体と心の声を聴く	9/17(木)	13:20~14:50	2	30
10	三島北高校	金澤寛明(教授)	看護を希望する生徒に対して、看護系大学の重要性を説明	9/30(水)	14:40~16:00	2	26
11	静岡県立榛原高等学校	松田正己(教授)	いのちと倫理	10/16(金)	14:30~15:40	2	30
12	富士宮西高校	小寺栄子(教授)	看護職の役割と課題	10/22(木)	13:30~15:00	2,3	45
13	静岡県立伊東高等学校	日吉孝子(講師)	静岡県立大学看護学部について	10/27(火)	14:00~16:00	1,2	60
14	静岡市立高校	松岡恵(教授)	性感染症の予防と看護	11/12(木)	15:40~17:00	1,2	20
15	下田高校	木村正人(教授)	①看護学部について、②健康と社会	11/20(金)	13:05~15:10	1	50
16	静岡県立焼津中央高等学校	三輪眞知子(教授)	地域における健康づくり対策	12/15(火)	14:30~15:40	2	20

5) その他の活動

西田公昭

- 「裁判員詐欺に御用心」, 朝日新聞夕刊, 2009年1月
- 「看護の実践統計」, 富士市中央病院, 静岡, 2009年1月
- 「人はこうして騙される・・・騙される方が悪いと言われたいために」, 立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科, 東京, 2009年1月
- 「テレビタカ：振り込め詐欺」 静岡放送, 2009年1月
- 「振り込め詐欺」 毎日新聞, 2009年1月
- 「マインド・コントロール：心理学から見る宗教カルトの信者」, 浄土真宗大谷派, 金沢, 2009年2月
- 「トコトンハテナ：架空請求の手口に迫る!」 テレビ東京, 2009年2月
- 「ズームイン!!SUPER：振り込め詐欺の4過程」 日本テレビ, 2009年2月
- 振り込め詐欺心理についてのインタビュー, 東京都江戸川区経営企画部, 2009年2月
- 「ズームイン!!SUPER：電話の声を聞き間違える心理」 日本テレビ, 2009年2月
- 「ためしてガッテン：脳科学で振り込め詐欺を撃退せよ」 日本放送協会, 2009年2月
- 「水曜ノンフィクション：振り込め詐欺の心理」 東京放送, 2009年2月
- 「振り込め詐欺」 信濃毎日新聞, 2009年2月
- 「読売テレビニュース：関西一の女相場師の騙しの手口」, よみうりテレビ, 2009年2月
- 「振り込め詐欺や悪質商法にかからない賢い消費者を目指して」 浜松市くらしのセンター, 浜松, 2009年3月
- 「消費者の問題は今、提言2009」 日本消費者新聞社, 2009年4月
- 「ひるおび!：振り込め詐欺の心理」 東京放送, 2009年4月
- 「新制度詐欺後絶たず」 日本経済新聞社, 2009年4月
- 「架空請求詐欺」 沖縄タイムス, 2009年4月
- 「ウェークエンド中部 特集：詐欺」 日本放送協会富山, 2009年4月
- 「第1回市民生活講座：だまされる心理」 富士市・富士市消費者運動連絡会, 富士市, 2009年5月
- 「ひょうご講座2009：マインド・コントロール」, ひょうご震災記念21世紀研究機構, 神戸, 2009年5月
- 「人はなぜ騙されるのか・・・悪質商法や振り込め詐欺の被害にあわないために」, かわさきコンシューマネット, 川崎, 2009年6月
- 「リアルタイムニュース 特集：詐欺」 北日本放送, 2009年6月
- 「なぜ人はだまされる？そこに働く心理：詐欺・悪徳商法から身を守る教育を考える」 埼玉県消費生活支援センター, 大宮, 2009年7月
- 「たけしのニッポンのミカタ：だれもがみんな詐欺にあう」 テレビ東京, 2009年7月
- 「振り込め詐欺の心理と対策」 しずおか防犯カレッジ2009, 静岡, 2009年7月
- 「ひるおび!!昼トク」 東京放送, 2009年7月
- 「対人心理学」 静岡がんセンター認定看護師養成講座, 長泉, 2009年8月
- 「振り込め詐欺の心理と対策」 しずおか防犯カレッジ2009, 三島, 2009年9月
- 「振り込め詐欺の心理と対策」 しずおか防犯カレッジ2009, 浜松, 2009年9月
- 「人はなぜ騙されるのか：悪質商法や振り込め詐欺の被害にあわないために」, 三鷹市市民大学総合コース, 三鷹, 2009年9月
- 「消費者はなぜだまされるのか：消費者被害・金融トラブル防止のために」 福井県安全環境部県民安全課, 福井, 2009年10月
- 「消費者はなぜだまされるのか：消費者被害・金融トラブル防止のために」 福井県安全環境部県民安全課, 小浜, 2009年10月

- 「消費者はなぜだまされるのか：消費者被害・金融トラブルを防ぐために」 宮城県・宮城県金融広報委員会，仙台，2009年10月
- 「ひるおび!! 昼トク」，2009年11月
- 「スッキリ!! 振り込め詐欺」 日本テレビ，2009年11月
- 破壊的カルトのマインド・コントロールとは何か?：マインド・コントロールに脅かされる社会」 フェリス女学院大学文学部学会講演会，2009年11月
- 「ニュース9：女性の結婚詐欺師について」 NHK 首都圏ネットワーク，2009年11月
- 「だまされるのが当たり前!!：詐欺・悪質商法の被害対策のための心理学」 ふじのみや安全・安心まちづくり市民大会，富士宮，2009年12月
- 「イブニング・アイ：放火の心理」 静岡放送，2009年12月
- 「揺らぐ宗教心：カルトとマインド・コントロール」，浄土真宗大谷派，岐阜，2009年12月
- 「県内の高齢者運転免許証返納の背景」 朝日新聞静岡版，2009年12月
- 「詐欺実名語りつけ込む」 中日新聞東海本社，2009年12月
- 「衝撃事件の核心」 産経新聞和歌山版，2009年12月
- 「おいしい犯罪返上」 読売新聞京都支局，2009年12月
- 「私たちの婚カツ元年」 静岡新聞アステル，2010年1月
- 「知って欲しい！カルト経験後の心の情景」 小諸いずみ会，東京，2010年1月
- 「だましの手口とだまされる心理～詐欺、悪徳商法の被害にあわないために～」 越前市男女共同参画センター：コミュニケーション講座，2010年1月
- 「上手な恋愛ができないと困るイマドキの事情」 越前市男女共同参画センター：コミュニケーション講座，2010年1月
- 「うちくクン」，日本テレビ，2010年2月
- 「ホンマでっか!?TV：身近に潜む危険」 フジテレビ，2010年2月
- 「悩める人間関係の打開に向けて：社会心理学からの提案」，第14回日本看護研究学会東海地方会学術集会，静岡，2010年3月
- 「振り込め詐欺」 静岡市広報紙「静岡気分」，3月15日号
- 「知らないのだまされるくこころの法則」，消費者セミナー2009，消費者支援機構関西，神戸，2010年3月
- 「ベストハウス123」，フジテレビ，2010年3月

小寺栄子

- 静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程講師，長泉町，2009年6月
- 高知女子大学大学院看護学研究科非常勤講師，高知市，2009年9月
- 全国回復期リハビリテーション看護認定コース講師，東京，2009年11月

寺内英真

- 静岡大学教員免許更新講習「救急時のアセスメントと創傷ケア」講師，静岡市，2009年8月
- 静岡県教育委員会体育保健課 平成21年度5年経験者研修（スキルアップ研修）「養護教諭に必要なフィジカルアセスメント」講師，静岡市，2009年8月
- 静岡市養護教諭研究会第1支部研修（スキルアップ研修）「養護教諭に必要なフィジカルアセスメント」講師，静岡市，2009年8月
- 静岡市養護教諭研究会第10・11支部研修（スキルアップ研修）「養護教諭に必要なフィジカルアセスメント」講師，静岡市，2009年8月
- 静岡市養護教諭研究会第2支部研修（スキルアップ研修）「養護教諭に必要なフィジカルアセスメント」講師，静岡市，2009年10月

佐藤智子

- 静岡大学教員免許更新講習「救急時のアセスメントと創傷ケア」講師，静岡市，2009年8月
- 静岡県教育委員会体育保健課 平成21年度5年経験者研修（スキルアップ研修）「養護教諭に必要なフィジカルアセスメント」講師，静岡市，2009年8月
- 静岡市養護教諭研究会第1支部研修（スキルアップ研修）「養護教諭に必要なフィジカルアセスメント」講師，静岡市，2009年8月
- 静岡市養護教諭研究会第10・11支部研修（スキルアップ研修）「養護教諭に必要なフィジカルアセスメント」講師，静岡市，2009年8月
- 静岡市養護教諭研究会第2支部研修（スキルアップ研修）「養護教諭に必要なフィジカルアセスメント」講師，静岡市，2009年10月

酒井見名子

- 静岡大学教員免許更新講習「救急時のアセスメントと創傷ケア」講師，静岡市，2009年8月。
- 静岡県「地域防災の日」，災害時の対応・救助法，講師，2009年12月

奥原秀盛

- 看護職員実習指導者等講習会，講師，静岡，2009年9月
- 静岡県立総合病院，看護研究講師，静岡，2009年（通年）

白尾久美子

- 静岡県看護協会「看護研究（基礎コース）」，講師，静岡市，2009年8月
- 静岡県認定看護師脳卒中リハビリテーション，講師，静岡市，2009年8月
- 豊橋市民病院研究指導，講師，豊橋市，2009年（通年）
- 静岡県立総合病院，看護研究講師，静岡市，2009年（年2回）
- 愛知県厚生連病院，「レベル4講習会」，講師，安城市，2009年（年3回）
- 福井日赤病院「新人看護師研修講習会」，講師，福井市，2010年3月
- 静岡県立総合病院「新人教育の企画・運営に関する講習会」，講師，静岡市，2010年3月

野村千文

- 「平成20年度看護研究発表会」，静岡県看護協会中東遠支部，講師，御前崎市，2009年2月
- 「第15回看護介護研究発表会」，医療法人健寿会山の上病院研修，講師，静岡市，2009年2月
- 「平成20年度研修会」，静岡県看護協会中東遠支部，講師，菊川市，2009年6月
- 「平成20年度看護介護研究」，医療法人健寿会山の上病院研修，講師，静岡市，2009年7月から9月まで
- 「平成20年度静岡県看護協会・認定看護師教育課程『脳卒中リハビリテーション看護』」，講師，静岡市，2009年9月

松岡恵

- 講演 思春期を大切にしよう，立教女学院中学校性教育委員会，講師，東京都，2009年6月

太田尚子

- ペリネイタル・ロス看護者教育プログラム：ワークショップ，聖路加看護大学ペリネイタル・ロス研究会主催，主催者・講師，東京，2009年3月
- 体験者に寄り添うペリネイタル・ロスのケア，WAIS 関東主催「想いを伝えるプロジェクト2009」，講師・ファシリテーター，東京，2009年5月

- ペリネイタル・ロス看護者研修プログラム:第1回フォローアッププログラム, 東アジアグリーンケアセミナー主催, 講師・ファシリテーター, 小倉, 2009年6月
- ペリネイタル・ロス看護者研修プログラム:第2回フォローアッププログラム, 東アジアグリーンケアセミナー主催, 講師・ファシリテーター, 小倉, 2009年6月
- 妊産婦のエンパワメントを引き出す心理的支援と研究方法, 茨城県立医療大学プロジェクト研究主催, 講師, 茨城, 2009年8月
- ペリネイタル・ロス看護者研修プログラム:ワークショップ, 聖路加看護大学ペリネイタル・ロス研究会主催, 主催者・講師, 横浜, 2009年9月
- ペリネイタル・ロスのグリーンケア, 第5回高知県周産期医療研修会:高知県医療センター総合周産期母子医療センター主催, 講師, 高知, 2009年10月
- ペリネイタル・ロス~周産期の死に寄り添う医療者として~, 日本助産師会愛媛県支部主催, 講師, 松山, 2009年11月
- 私たちのグリーンワークとグリーンワークにつながるものづくり, 東アジアグリーンケアセミナー主催「第3回東アジアグリーンケアセミナー」, テーマ会主催者・講師, 北九州, 2009年12月
- ペリネイタル・ロス(講義・演習), 東京都委託事業日本助産師会東京支部主催, 講師, 東京, 2009年12月
- ペリネイタル・ロス看護者研修プログラム:第1回フォローアッププログラム, 聖路加看護大学ペリネイタル・ロス研究会主催, 主催者・講師, 東京, 2010年1月
- ペリネイタル・ロス看護者研修プログラム:ワークショップ, 東アジアグリーンケアセミナー主催, 講師・ファシリテーター, 小倉, 2010年1月
- ペリネイタル・ロスにおけるグリーンケアの実践, 日総研主催日総研セミナー, 講師・ファシリテーター, 東京, 2010年2月
- ペリネイタル・ロスを経験した褥婦・家族への援助, 北海道看護協会主催「平成21年度助産師職能交流会」, 講師, 釧路, 2010年3月
- ペリネイタル・ロス看護者研修プログラム:第2回フォローアッププログラム, 聖路加看護大学ペリネイタル・ロス研究会主催, 主催者・講師, 東京, 2010年3月
- 子どもを亡くした保護者への支援のあり方, 神奈川県小田原保健福祉事務所主催「平成21年度養育困難事例検討会」, 講師・コメンテーター, 小田原, 2010年3月

勝又里織

- 研修「2009年度ケアから始めるカラダとココロの性教育-HIV/STIの新時代的アプローチ」, 財団法人日本性教育協会, 講師, 東京, 2009年11月3日, 9日, 15日(計3日間)

河内俊二

- 第3回行動制限最小化研究会, 「隔離と身体的拘束における看護師の主体的判断」, 講演, 福岡, 2009年10月

三輪真知子

- 日本子ども虐待防止学会第15回学術集会埼玉大会分科会, コメンテーター, 2009年11月
- 全国保健師長会静岡支部総会及び研修会, 講師, 2009年5月
- とちぎ健康福祉協会「健康危機管理研修」, 講師, 2009年11月

長谷川喜代美

- 新任地域保健従事者研修会(熱海・東部・御殿場・富士健康福祉センター管内)講師, 2009年12月
- 静岡市新人保健師研修会, 講師, (通年)

- 日本ルーラルナーシング学会第4回学術集会一般演題(高齢者看護活動)座長, 2009年8月

上田真仁

- 静岡県「地域防災の日」災害時の対応・救護法、講師、2009年11月

8. 教員紹介

【医学系】

教授

木村正人 1974年 東京大学医学部医学科卒業、博士（医学；東京大学）
医師（東京大学）
所属学会 日本腎臓学会、日本内科学会、国際腎臓学会
担当科目 （学部）健康と社会、症候論、病態学Ⅰ、臨床検査学、基礎健康科学実習、卒業研究
（研究科）病態生理学

金澤寛明 1987年 新潟大学医学部医学科卒業、博士（医学；新潟大学）
医師（新潟大学）
所属学会 日本解剖学会、日本味と匂い学会、日本循環器学会、日本生体医工学会
担当科目 （学部）機能形態学、基礎健康科学実習、病理学、臨床検査学、基礎医学実習、卒業研究
（研究科）生体構造機能論

講師

日吉孝子 2006年 筑波大学大学院人間総合科学研究科修了、博士（ヒューマン・ケア科学：筑波大学大学院）
看護師（国立療養所再春荘病院附属看護学校）、保健師（大分県立看護科学大学）、養護教諭2種免許（大分県立看護科学大学）
所属学会 日本看護研究学会、日本アレルギー学会、大気環境学会
担当科目 環境健康論（新カリ）、基礎看護実習Ⅰ・Ⅱ、ケア場面実習（新カリ）、微生物学、基礎医学実習、基礎健康科学実習（新カリ）、発展看護実習、卒業研究

助教

濱井妙子 1997年 東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻博士課程中途退学
修士（保健学；東京大学大学院）
薬剤師（福岡大学）
所属学会 日本公衆衛生学会、日本国際保健医療学会、日本医療薬学会、日本医療・病院管理学会
担当科目 （学部）国際保健学、保健学Ⅱ、保健医療統計学、基礎健康科学実習
受賞歴 2000年 日本医療薬学会論文賞

【心理学系】

准教授

西田公昭	1988年	関西大学大学院社会学研究科博士後期課程単位取得満期退学 博士（社会学；関西大学）
所属学会		日本社会心理学会、日本グループ・ダイナミクス学会、日本看護研究学会
担当科目		(学部)人間関係論、保健医療情報学、社会行動論、心理学演習 卒業研究、日常生活と心理学 (研究科)社会人間行動論 研究法Ⅱ
受賞歴		1986年 第1回日本グループ・ダイナミクス学会研究奨励賞 1990年 日本心理学会研究奨励賞第17号 1995年 第2回社会心理学会研究優秀賞 1999年 日本心理学会研究奨励賞第101号 2001年 第5回社会心理学会研究優秀賞

【基礎看護領域】

教授

小寺栄子	1994年	東海大学大学院工学研究科経営工学専攻博士課程後期単位取得満期退学 修士（看護学；ニューヨーク大学大学院） 看護師（高知女子大学）・保健師（高知女子大学）・中学校一級・高校教諭 二級免許・養護教諭一級免許（高知女子大学）
所属学会		日本看護管理学会、医療・病院管理学会、日本看護科学学会
担当科目		(学部)看護学概論、ヘルスアセスメント技術、基礎看護実習Ⅱ、ケア場 面実習、看護管理論、看護教育論、発展看護実習、特定領域看護、卒業 研究 (研究科)看護管理学特論、看護管理学演習、看護管理学応用実習、看護管 理学特別研究、看護教育論

講師

寺内英真	2005年	聖隷クリストファー大学大学院看護学研究科修了 修士（看護学：聖隷クリストファー大学大学院） 看護師（聖隷クリストファー看護大学）
所属学会		日本看護研究学会、日本クリティカルケア看護学会、日本救急看護学会
担当科目		基礎看護技術Ⅰ、ヘルスアセスメント技術、基礎看護の方法Ⅲ、ケア場 面実習、基礎看護実習Ⅱ、基礎セミナー、発展看護実習、卒業研究

助教

- 酒井見名子** 2007年 静岡県立大学大学院経営情報学研究科修士課程修了
修士(経営情報学; 静岡県立大学大学院)
看護師(静岡県立大学)、保健師(静岡県立大学)
所属学会 医療・病院管理学会
- 佐藤智子** 2003年 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻博士課程満期退学
修士(保健学; 東京大学大学院)
看護師(東京大学)、保健師(東京大学)
所属学会 日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本教育工学会

【成人・老人看護学領域】

教授

- 古川文子** 2001年 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻博士後期課程修了博士(保健学; 東京大学大学院)、修士(看護学: JHU, 1995)
看護師(日本: 高松赤十字高等看護学院 1972年、米国: ハワイ大学マノア校 看護学学士 1987年 RN ライセンス ハワイ州、メリーランド州)
所属学会 日本看護科学学会、日本看護研究学会、Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing (Nu Beta Chapter)、日本慢性看護学会
担当科目 (学部)対象の理解 I, 成人看護の方法 I, II, 成人看護学実習 I, II、発展看護学実習、卒業研究、看護理論
(研究科)成人・老人看護学特論 I、成人・老人看護学演習 I、成人・老人看護学応用実習 I、成人・老人看護学特別研究、看護理論、英文科学論文講読

准教授

- 奥原秀盛** 1993年 琉球大学保健学研究科修士課程修了
修士(保健学; 琉球大学大学院)
看護師(琉球大学)、保健師(琉球大学)
所属学会 日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本サイコオンコロジー学会
担当科目 (学部)成人看護の方法 I、成人看護実習 I・II、成人・老人看護方法演習、在宅看護実習、ターミナルケア、発展看護実習、卒業研究
(研究科)成人・老人看護学特論 III、成人・老人看護学演習 III、成人・老人看護学応用実習 III、成人・老人看護学特別研究 III、
- 白尾久美子** 2004年 愛知淑徳大学コミュニケーション研究科博士後期課程単位取得満期退学
博士(学術; 愛知淑徳大学大学院)
看護師(名古屋市立大学看護学校)
所属学会 日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本看護教育学会
担当科目 (学部)成人看護の方法 II、成人・老人看護方法演習、成人看護実習 I・II、卒業研究、発展看護実習、看護研究
(研究科)成人・老人看護学特論 II、成人・老人看護学演習 II、成人・老人看護学応用実習、看護教育論、研究法 I

野村千文	2007年	山梨大学大学院医学工学総合教育部博士課程看護学専攻修了 博士（看護学；山梨大学大学院） 看護師（藤田保健衛生大学）、保健師（藤田保健衛生大学）
所属学会		日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本老年看護学会
担当科目		（学部）基礎セミナー、老人看護の方法、成人・老人看護方法演習、ライフサイクル実習、成人看護実習Ⅰ、老人看護実習、発展看護実習、卒業研究 （研究科）成人・老人看護学演習Ⅰ（慢性看護学）、成人・老人看護学応用実習Ⅰ（慢性看護学）
助教		
池田和恵	2004年	静岡県立大学大学院看護学研究科修士課程修了 修士（看護学；静岡県立大学大学院） 看護師（大阪府立看護大学）、保健師（大阪府立看護大学）
所属学会		日本医学哲学・倫理学会、日本看護科学学会、日本がん看護学会
井下裕子	2005年	山梨大学大学院医学工学総合教育部修士課程看護学専攻修了 修士（看護学；山梨大学大学院） 看護師（聖隷クリストファー看護大学）、保健師（聖隷クリストファー看護大学）
所属学会		日本看護科学学会、山梨大学看護学会
繁田佳映	2008年	東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻修了 修士（保健学；東京大学大学院） 看護師（金沢大学）、保健師（金沢大学）
所属学会		日本老年泌尿器科学会、日本褥瘡学会、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会、日本創傷・オストミー・失禁管理学会
山田理絵	2008年	金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻博士課程修了 博士（保健学；金沢大学大学院） 看護師（富山医科薬科大学）、保健師（富山医科薬科大学）
所属学会		日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本高次脳機能障害学会

【小児看護学領域】

助教

- 美濃祐紀子 2005年 静岡県立大学大学院看護学研究科修士課程修了
修士（看護学；静岡県立大学大学院）
看護師（名古屋大学医療技術短期大学部）
助産師（名古屋大学医療技術短期大学部）保健師（聖路加看護大学）
養護教諭2種免許（聖路加看護大学）
所属学会 日本乳幼児精神保健学会、日本国際保健医療学会、日本助産学会
- 齊本美津子 2002年 浜松医科大学大学院医学系研究科修士課程修了
修士（看護学：浜松医科大学大学院）
看護師（聖隷学園浜松衛生短期大学第一衛生看護科）
助産師（聖隷学園浜松衛生短期大学助産学特別専攻）
所属学会 小児保健学会、母性衛生学会、日本助産学会

【母性看護学・助産学領域】

教授

- 松岡 恵 1990年 東京大学大学院医学系研究科第一種博士後期課程保健学専攻修了
博士（保健学；東京大学大学院）
看護師（聖路加看護大学）、助産師（聖路加看護大学）、保健師（聖路加看護大学）
所属学会 日本看護科学学会、日本母性衛生学会、日本助産学会、日本思春期学会、
日本女性心身医学会、日本小児保健学会、日本母乳哺育学会
担当科目 （学部）対象の理解Ⅲ、母性看護の方法Ⅰ、母性看護の方法Ⅱ、
母性看護の方法Ⅲ、母性看護実習、助産学Ⅰ、助産学Ⅱ、助産学Ⅲ、
助産学Ⅳ、助産学実習、卒業研究
（研究科）母性看護学特論、母性看護学演習、母性看護学応用実習、母性看護学特別研究

准教授

- 太田尚子 2009年 聖路加看護大学大学院看護学研究科博士後期課程修了
博士（看護学：聖路加看護大学大学院）
看護師（筑波大学医療技術短期大学部）、保健師（東京大学）、助産師（京都大学医療技術短期大学部）
所属学会 日本助産学会、日本看護科学学会、日本臨床死生学会、日本生命倫理学会、
日本遺伝看護学会、聖路加看護学会、日本母性衛生学会、看護研究学会
担当科目 （学部）基礎セミナー、対象の理解Ⅲ、母性看護の方法Ⅰ、母性看護の方法Ⅲ、
母性看護方法演習、母性看護実習、卒業研究、発展看護実習、助産学Ⅰ、
助産学Ⅲ、助産学Ⅳ、助産学実習
（大学院）研究法Ⅱ、母性看護学特論、母性看護学演習、母性看護学応用実習
受賞歴 2006年 日本助産学会20周年記念論文優秀賞
2010年 第24回日本助産学会学術集会 優秀ポスター賞

講師

勝又里織 2006年 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科修了
修士(看護学:東京医科歯科大学大学院)
看護師(昭和大学医学部附属看護専門学校)、保健師(東京医科歯科大学)、助産師(京都大学医療技術短期大学部)
所属学会 日本助産学会、日本看護科学学会、日本女性心身医学会、日本思春期学会、日本看護医療学会
担当科目 (学部)母性看護の方法Ⅲ、母性看護実習、助産学実習、発展看護実習

助教

ウッド小池 奈津子 2006年 デュケイン大学看護学部修士課程修了
修士(看護学、専門:看護教育;デュケイン大学大学院)
看護師(東京警察病院看護専門学校)、助産師(東京大学医学部付属助産婦学校)
アメリカペンシルバニア州登録看護師(デュケイン大学)
所属学会 Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing

山田貴代 2004年 静岡県立大学大学院看護学研究科修士課程修了
修士(看護学;静岡県立大学大学院)
看護師(金沢大学医療技術短期大学部)、助産師(金沢大学医療技術短期大学部)
所属学会 日本公衆衛生学会、日本医療・病院管理学会、日本助産学会、静岡県母性衛生学会

鈴木 恵 2004年 静岡県立大学大学院看護学研究科修士課程修了
修士(看護学;静岡県立大学大学院)
看護師(静岡県立大学看護学部)、助産師(静岡県立大学看護学部)、保健師(静岡県立大学看護学部)
所属学会 日本助産学会

【精神看護学領域】

教授

式守晴子 1979年 東京大学大学院医学系研究科博士課程保健学専門課程 単位取得済退学博士(保健学;東京大学)
看護師(東京大学)、保健師(東京大学)
所属学会 日本精神保健看護学会、日本集団精神療法学会、日本家族看護学会
担当科目 (学部)精神看護の方法、精神看護方法・演習、精神看護実習、卒業研究(研究科)精神看護特論、精神看護演習、精神看護応用実習

講師

石村佳代子 2009年 聖路加看護大学大学院看護学研究科博士後期課程修了
博士（看護学；聖路加看護大学）
看護師（東京女子医科大学看護短期大学）、保健師（千葉大学）
所属学会 日本看護科学学会、日本精神保健看護学会、日本看護研究学会
担当科目 看護研究、精神看護の方法、精神看護方法演習、精神看護実習、
発展看護実習、卒業研究

助教

河内俊二 2009年 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科博士前期課程修了
修士（看護学；東京医科歯科大学）
看護師（国立東静病院附属看護学校）、精神保健福祉士
所属学会 日本看護科学学会、日本精神保健看護学会
担当科目 精神看護の方法、精神看護方法演習、精神看護実習

【地域看護学領域】

教授

三輪眞知子 2004年 愛知淑徳大学コミュニケーション研究科博士後期課程単位取得満期退学
博士（学術；愛知淑徳大学大学院）
看護師（慶応義塾大学医学部附属看護学校）、保健師（静岡県立厚生保育
専門学校）
所属学会 日本公衆衛生学会、日本地域看護学会、日本看護研究学会、日本看護科
学学会
担当科目 (学部) 地域看護の方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、地域看護方法演習、地域看護実習、
ライフサイクル実習、発展看護学実習、卒業研究、(研究科) 地域看護学
特論、地域看護学応用実習、地域看護学特別研究

准教授

長谷川喜代美 2008年 千葉大学大学院看護学研究科博士後期課程修了
博士（看護学；千葉大学大学院）
看護師（千葉大学）、保健師（千葉大学）
所属学会 日本公衆衛生学会、日本地域看護学会、日本家族看護学会、日本老年看
護学会、千葉看護学会
担当科目 地域看護の方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、地域看護方法演習、地域看護実習、ライフ
サイクル実習、在宅看護実習、卒業研究

助教

上田真仁	2001年	聖隷クリストファー大学大学院看護学研究科修士課程修了 修士（看護学；聖隷クリストファー大学大学院） 看護師（聖隷クリストファー大学）、保健師（聖隷クリストファー大学）
	所属学会	日本公衆衛生学会、日本地域看護学会、日本家族看護学会、学校保健学会
	担当科目	地域看護学実習、地域看護方法演習、地域看護の方法Ⅱ・Ⅲ、基礎看護実習Ⅱ

【看護学研究科専任】

教授

紙屋 克子	1994年	北海学園大学大学院法学研究科修士課程修了 修士（法学，北海学園大学） 博士（医学，筑波大学）
	所属学会	日本看護研究学会理事、日本看護管理学会理事、日本看護学教育学会理事、日本脳神経看護研究学会副理事、日本看護科学学会評議員、日本生命倫理学会評議員
	担当科目	看護技術学特論、看護技術学演習、看護技術応用実習、看護研究、看護理論、看護と医事法、命と倫理、研究法Ⅰ、研究法Ⅱ、

編集後記

ようやく、平成 21 年度の学部・研究科報を出すことができました。学部・研究科の皆さん協力ありがとうございました。昨年度は大学評価があり、また教員評価の施行もこの春あり、何度同じものを書かされたかとぼやかれました。今後はなんとか、毎年おこなわれる教員評価のデータをもとにして、それにプラスアルファでできるものにするよう検討したいと思います。今後看護学部は激しい変化の波に乗ってやっていかなくてはなりません、最小限の力で最大限の効果が得られるよう、無駄の無い作業となるよう考えます。

平成 22 年 7 月

看護学部自己点検評価委員会

金澤寛明、酒井見名子、鈴木恵